



清流の国ぎふ芸術祭
第2回ぎふ美術展
THE 2nd
GIFU ART EXHIBITION

清流の国ぎふ芸術祭 第2回ぎふ美術展

Gifu Land of Clear Waters Art Festival THE 2nd GIFU ART EXHIBITION

2019

生まれる。あふれだす。

清流の国ぎふ芸術祭
第2回ぎふ美術展

THE 2nd
GIFU ART
EXHIBITION

2019年8月17日(土)～9月1日(日)

主催 岐阜県・岐阜県美術館・岐阜県現代陶芸美術館、
(公財)岐阜県教育文化財団

目次

ごあいさつ	2
審査員講評	4
受賞作品	12
出品目録	26
関連プログラム	30
応募要項	40
応募状況	42
来場者アンケート	43
広報	44
記念品と作家紹介	47
運営体制	48
企画委員長総評	49

本県では、69回の歴史を重ねた「岐阜県美術展」を時代の変遷や表現の多様化に合わせて刷新し、2017年に新たに「清流の国ぎふ芸術祭」を創設しました。「ぎふ美術展」は、その3本柱の一つで、県民の皆様の創作活動の成果を広く発表いただく場として開催しております。

第2回目となる今回は、岐阜県美術館の改修工事に伴い、会場を多治見市のセラミックパークMINOに移しての開催となりましたが、県内外の4歳から93歳まで幅広い年代の方々から、意欲的で個性溢れる作品、813点のご応募をいただきました。

また、本展の魅力の一つともなっている審査員には、前回に続き、文化勲章受章者や重要無形文化財保持者など各分野の第一人者にご就任いただき、厳正なる審査を行っていただきました。加えて、作品講評会やトークイベントにもご参加いただき、応募者・来場者の皆様にとっても貴重な交流の機会となり、大変ご好評をいただいたところです。

さらに今回は、前回より会期を延ばしたことも功を奏し、会期中には前回は大きく上回る1万2千人を超える方々にご来場いただき、県民の皆様の創造力、鑑賞力の向上にも大きく寄与できたものと考えております。本展を成功裏に終えることができましたのも、開催にあたり格別のご尽力を賜りました関係の皆様のおかげであり、ご厚情に対して心から感謝申し上げます。

今回は令和3年度に開催予定ですが、今後とも、「清流の国ぎふ芸術祭」の「Art Award IN THE CUBE」「アート体験プログラム -アトラボぎふ-」とあわせ、県民の皆様とともにこの「ぎふ美術展」をより一層盛り上げ、岐阜県の芸術文化の益々の発展に繋がるよう努めてまいります。

岐阜県知事 古田 肇

第2回目となりました「ぎふ美術展」は、岐阜県美術館から会場を変え多治見市のセラミックパークMINOで開催しました。開催場所が東濃地域であったため、事前の広報にも力を入れました。新聞や地域生活情報誌などの広告を強化したのをはじめ、県内各地域の文化施設での作品募集キャラバンの実施、土岐プレミアム・アウトレットでのPRイベントの開催、東濃地域の美術館等13施設にご協力をいただいたスタンプラリー「東濃アートめぐり」の実施など、新たな取り組みも行いました。

また、JR多治見駅から土日限定でシャトルバスを運行したことや、岐阜県現代陶芸美術館による「MoMCAの小さな図工室」の各種ワークショップを会期に合わせて開催したことも来場者の方に好評でした。

こうしたことも功を奏し、1万2千人を超える多くの方にご来場いただきました。その内の4人に一人が地元東濃地域の方であったことは、美術に親しむ県民の裾野を拡大するという目的を達成するうえで良い試みであったのではないかと考えております。

一方で、会場が美術館ではなかったことから、仮設壁面パネルやスポット照明の設置などの面で工夫がほしかったとの声も聞かれました。今後は、審査員の先生方や来場者の皆様からいただいたご意見を参考に、県民の皆様の創造力、鑑賞力の向上により一層寄与するための「ぎふ美術展」をめざして取り組んでまいります。

最後に、「第2回ぎふ美術展」の開催にあたり、格別のご支援を賜りました審査員の諸先生方、企画委員ならびにご協力いただきました関係各位に深く感謝申し上げます。

公益財団法人岐阜県教育文化財団 理事長 高木敏彦





木本 文平
Kimoto Bunpei
碧南市藤井達吉現代美術館館長

日本画部門に応募された作品は、プリミティブな表現による作品もあれば、日本画独特な素材や技法に真摯に取り組んだ本格的な作品もあり、実にバラエティに富んだ内容でした。そして、それらの作品から強く印象に残ったのは、描くことに対する喜びや作者自身の率直な感動が直截に表現されていることでした。

なかでも、ぎふ美術展賞となった藤井星夏さんの「鰐」は、日本画の伝統的な素材である岩絵の具の特質を充分に活用した作品であり、モチーフ（題材）の持つ質感や量感、そして動く様までをも表現した力作でした。次に優秀賞の受賞となったのは佐藤正子さんと青藍蒼さんの作品で、佐藤さんの「full bloom」は、色彩表現の豊かさとする者をファンタジーの世界に誘引する魅力がありました。また、青藍さんの「message in a bottle」は、写実と抽象を巧みに組み合わせた作品で、優れたデザイン感覚を感じさせられました。この他、奨励賞を受賞された伊藤睦美さん、長谷部やよいさん、浅井新太さん、古川幸代さんの作品も新鮮な感動が真摯に伝わってくるものでした。最後に、受賞者や応募された方々の益々の研鑽とご活躍を期待いたします。



那波多目 功一
Nabatame Koichi
日本画家
日本芸術院会員

今回のぎふ美術展賞は色調、構図、表現力ともすばらしく、文句なしの秀作です。この作品の色調は一つ間違うと暗く沈んで勢いのない作品になりがちですが、高度な技術力で見事に表現しております。

優秀賞の佐藤正子さんの作品は、よくここまで思い切って消せるものだと感心して拝見しました。白い夢の世界を高い感覚で表現されているすばらしい才能を感じました。青藍蒼さんの作品は砂浜を造形的にとらえているところが非常に面白いと思いました。

奨励賞では、「雨やどり」は雨の描き方に一工夫欲しいですね。細かったり太かったり、長かったり短かったり、しっかり写生をすればすぐ解決します。自然はもっと自然ですばらしいです。「富貴」は花のやさしさ、花の命のはかなさが良く表現されていて好感がもてました。「月に想う」は夢をこよなく感じ観るに、夢の世界へといざなう不思議な魅力を感じました。

賞にはなりませんでした。が、「そよ風」は花の色がもっと白に近い色だったら爽やかな感じが出たと思います。「山車」は山の形と群青の色がせっかく上手に表現されている山車の良さを消してしまっています。惜しい作品です。「刻の花」は構図、色調は申し分ないのですが、花の硬さが気になりました。夢の中の花が描いてあればよかったと思いました。



池口 史子
Ikeguchi Chikako
洋画家
日本芸術院会員

審査会場に入った途端、質の高い展覧会と思った。甲乙つけ難い作品が並んでいる。入選作を決めるにも何往復をし、それから賞候補に入るとなおさら悩む。

ただ質は高いが、ずば抜けた個性に出会わない。賞候補として10数点並べてみて結局7点に絞る。最終的に手慣れた作品「穏やかな空間」をぎふ美術展賞に決めた。オーソドックスな作品だが自然な美意識が漂う。

今、はやりの奇をてらった作品は少なかったが気持ちの良い結果が出たと思う。賞に漏れたが、差をつけ難い作品が並んだ会場を後にして少し心が痛む。



奥谷 博
Okutani Hiroshi
洋画家
日本芸術院会員

審査をするということは、言い換えればこちらも審査をされるということであり、襟を正して審査に当たりました。平均的レベルで、ずば抜けた作品が見当たらないと思いながら審査を進めましたが、最終的に賞の段階を見えますと、高いレベルの作品揃いでした。

展示できる壁面を考え、極力省かないようにと考え、何回も作品を見て回りました。入選、落選は紙一重です。次回を期待いたします。

ぎふ美術展賞、小森啓子さんの作品「穏やかな空間」は、何を描きたいのか、何に興味を持ったのかを平凡な中より見る人に訴える力を感じる作品になっています。秀作です。

優秀賞、古田清光さんの「清流を求めて」は、形などの表現に独特な感じ方があり、貴方の個性というか、その辺りが大変惹かれるところです。

優秀賞、天野るみ子さんの「明日来る夢」は美しい作品になりました。いろいろな感情が画面を走り回っています。頑張ってください。



黒川 弘毅
Kurokawa Hirotake
彫刻家
武蔵野美術大学教授

応募作品には様々な材料と表現技法がみられ、審査では、それぞれの作品に豊かな制作キャリアを感じ、サイズの大小に関係なく「つぶぞろい」との印象を持ちました。選定では、作ることの楽しさを率直に感じさせる作品すべてを入選としました。それら一つ一つが、技法における専門的スキルの優劣を超えるかけがえのない魅力を持っていると私は感じます。第1回展よりも応募数が減少したにもかかわらず、彫刻部門では入選数が増加しました。今回、そのことが展示の活気になっていると思います。

ぎふ美術展賞を獲得した作品は、羊毛を用いてデリケートな手法で作られ、装飾性への新鮮な感覚を示すとともに、人間表現に向かう強い造形的意志が感じられました。優秀賞と奨励賞の作品には、かたちを作り出す技術的な手堅さとともに、作ることへの特別な欲望が感じられました。例えば、一木から彫り出すことへの、あるいは作曲家とその楽曲へのオブセッションのような。



藪内 佐斗司
Yabuuchi Satoshi
彫刻家
東京藝術大学大学院教授

彫刻部門は、出品作品数が20数点と多くはありませんでしたが、テーマや材質、表現ともバラエティに富む作品群で、楽しく審査を進めることができました。それぞれの作品から、作者の作る素直な喜びが感じられて、甲乙をつけることが忍び難かったというのが正直な感想です。

ぎふ美術展賞となった「曳山 鳥辺山心中」は、羊毛という珍しい素材を用い、たしかな造形技術をもって不思議な世界観を表現しており、最初から目を引きました。「輪入道」は、非常にインパクトのある作品で、また「歩む」は、縄文時代の土偶を思わせるプリミティブな造形が魅力的でした。「ある場所、ある時間」は、静物画のような静謐な作品で、好感を持ちました。

今年の搬入会場の関係か、大きな作品が少なかったように思いましたが、作品の密度も完成度も高いものが多かったと思います。次回のさらなる発展が期待されます。



樋田 豊郎
Hida Toyoro
東京都庭園美術館館長

工芸分野は、素材、技法、そして用途が千差万別なので、選ぶのに迷った。結局、いつも私が思っている「装飾する魂」がみなぎっている作品を選んだ。

それでいうと、ぎふ美術展賞の「越境する型」は、金属を叩いてつくる曲面が自由奔放で楽しかった。カヌーのようでもあり、ワニのようでもあり、創造の秘密を探るよろこびがあった。優秀賞の「型絵染 ひっそりと」は、桜の枝振りが浮遊しているようで不思議だった。花の散らし方も、全体が桃色のなかでわずかに使われている葉の緑色も効果的だった。

このほか、奨励賞の「威嚇」は、超絶技巧の風調に乗っけてはいたが、自分の目で鳥のかわいらしさをとらえていてよかった。また、陶芸作品には伝統からオブジェまでがあって、岐阜県ならではのと思いました。



前田 昭博
Maeta Akihiro
陶芸家
重要無形文化財「白磁」保持者

工芸部門には、陶芸・染織・金工など様々な素材と技法による作品が、県内外から出品されていました。

80点の出品作の中から、素材の特徴をよく引き出し、思いと技で表現されているものを入選作とするように心掛けました。その中から、確かな技術に支えられ創作されたものを受賞作に決めていきました。

ぎふ美術展賞に輝いたのは、大きさもさる事ながら創造性と技術力において圧倒的な力量を見せた金工作品でした。鍛金という技法でこの大作に挑む覚悟と造形力は、並大抵の事ではなく、最高賞にふさわしいものでした。

優秀賞の「緑釉花器」は、ろくろで挽き上げられた形態と釉薬の色合いの美しさがバランスよく、経験に裏打ちされた力量を感じました。

同じく優秀賞の「型絵染 ひっそりと」は、花びらの配置と背景の淡い色彩から、しだれ桜の情景や空気感がよく伝わってくる作品でした。

奨励賞4点も素材や技法は異なるものの、それぞれに作者の思いが表れている作品でした。





島谷 弘幸
Shimatani Hiroyuki
九州国立博物館長

大変にバラエティに富んだ出品作であったが、ことに漢字作品のレベルが高かった。

ぎふ美術展賞の篆刻作品は、印はもとより落款の入れ方も見事。他の入賞作品も、造形と線質、空間構成に優れており、今後の活躍が期待される。

今回は、古典を基盤とし、これに個性を加味した作品が入賞されている。この傾向は、伝統と創造のバランスが肝要の書の分野にとっては、とても大切である。今後も、この姿勢のもとで、書作がなされることを願っている。

最後に、小中学生と一般と一緒に審査することが困難であった。今後、これについては他分野と協議することも必要であろう。



高木 聖雨
Takaki Seiu
書家
大東文化大学教授

第2回ぎふ美術展の審査をさせていただき先ず感じたことは古典に準拠し、創意を参酌した作品が大半で、県の書道レベルの高さに驚かされた。特に行草書作品は王羲之書法に則り構成されており、安定感ある作品に仕上げられている。今後の課題としては縦作品で画一的になりすぎたもの（三行書）が多く見られ一考したい。

ぎふ美術展賞を受賞された波多野公一さんの篆刻作品「近作三種」は刻印の構成、刀の切れ味など見事。又、落款も書作品を見た思いがする。

選考に苦慮しながら実に楽しい一日であった。



石田 哲朗
Ishida Tetsuro
東京都写真美術館学芸員

アマチュアならではの素直な写真と、作品意識の高い写真の二つの傾向がありました。どちらのタイプでも、テクニック的なことよりも、型にはまらない独自性、作家自身の視点や世界観が見えるもの、そしてビジュアルとしての強さや魅力に重点を置いて選考しました。

写真は作者の外側にある、風景や出来事、事物、そして光と影との関わりの中で成立するものですが、作者自身の内側に確かなイメージや、求めるビジョンがあってこそ、作品に強さと魅力が加わるのだと思います。

選考では表現の多様性もまた生かしたいと考えました。自然の美しさや日常の瞬間を捉えたものから、人工的な美、構成的な作風まで幅広い写真の可能性がここにはあります。それぞれの作品を通して、時代性の反映も感じ取っていただければと思います。



小林 のりお
Kobayashi Norio
写真家
武蔵野美術大学教授

全体としては、旧態依然とした花鳥風月の表現や定型化した美意識に囚われた作品が多く、クリティカルに外部世界へと立ち向かって行くような独自性に富んだ作品が少なかったのが残念でした。

ぎふ美術展賞「感じる視線」は、ストリートスナップショットの緊張感に支えられて、刹那的な時空を鋭い感性とスリリングなフレーミングで鮮やかに切り取っています。優秀賞の「悠久の刻を経て」は、風景を地勢学的に解釈し、惑星探査機のごとく緻密で客観的な眼差しで捉えることに成功しています。同じく優秀賞の「the sculpture of sensuous wall」は、コンストラクテッド・フォトの手法を用いて虚構の空間を構築し、幻想的でシュールな物語を紡ぎ出しています。

私が選出した奨励賞「風船の旅」と「鼓動の共鳴」は、身に纏うアクセサリのようにフランクに写真と接する新たな世代、時代の予兆を感じさせる作品で、技術的には未熟ながらもその可能性にエールを送る形となりました。時代を、他者を、自分自身を映し出す鏡、窓としての写真…。新たな挑戦に期待します。





榎木 野衣
Sawaragi Noi
美術批評家
多摩美術大学教授

自由表現のぎふ美術展賞は今回、古田長利さんの「異空間」に決まった。不安定に立つサンドイッチのようにはさまれた空間ではなく、空隙に、驚くほど壮大な世界が広がっている。この世の終わりの姿のようでもある。しかしそれは少し身をかがめて覗き込まないと見えてこない。壮大さを覗き込むというこの体験のギャップが、本作の最大の魅力だろう。

優秀賞に選ばれた平瀬ミキさん「Translucent Objects」、渡邊正康さん「風の音色」は、映像と立体というように表現の手法こそ違えども、動きの工夫や音の扱いが巧みで、つつい引き込まれてしまう。いずれも自由表現ならではの成果と言えそうだ。

ほかに奨励賞の桑原こども園ぞう組の「しなやか」は失敗を挽回する絵と物との対話のおかしみを、同じく奨励賞の青山裕史さん「個々」は怪獣を個性豊かな群像図として描いた力量を推したい。



島 敦彦
Shima Atsuhiko
金沢21世紀美術館館長

思っていた以上に自由で、多彩な作品群に会い、いささか戸惑いつつも、従来のジャンルにはない斬新な表現を意識的に選んだ。

ぎふ美術展賞を受賞した古田長利さんの「異空間」は、都市が圧搾された後、再び引きはがされたような混沌とした世界を感じさせた。灰色の塗料が恐竜の歯のようなのも面白い。

優秀賞を受賞した平瀬ミキさんの映像作品「Translucent Objects」は、カラフルな積木を並べ、立てかけてゆく半透明な重層性が魅力である。同じく優秀賞の渡邊正康さんの「風の音色」は、穴を手で塞ぐと優しい笛の音色が鳴る仕掛けで、観客の参加を促す作品である。

奨励賞を受賞したナガオ・アツシゲさんの「一度きりの人生ですもの。夢のひとつきを。」は、コンセントの複雑な交錯によって、人それぞれの生のあり様を視覚化し、同じく、奨励賞の古川愛望さんの「偶像崇拜」は、粗いタッチの画面に心の叫びが切実に投影されていた。



清流の国ぎふ芸術祭
第2回ぎふ美術展

THE 2nd
GIFU ART EXHIBITION



ぎふ美術展賞

「鱷」 藤井星夏（岐阜市）



優秀賞
「full bloom」
佐藤正子（岐阜市）



優秀賞
「message in a bottle」
青藍 蒼（愛知県）



奨励賞
「椿つつら」
伊藤睦美（岐阜市）



奨励賞
「月に想う」
長谷部やよい（可児市）



奨励賞
「雨やどり」
浅井新太（下呂市）



奨励賞
「富貴」
古川幸代（垂井町）

ぎふ美術展賞 | 「穏やかな空間」 小森啓子（岐阜市）



優秀賞
「明日来る夢」
天野るみ子（中津川市）



優秀賞
「清流を求めて」
古田清光（本巣市）



奨励賞
「鉄の街」
鈴木昌義（中津川市）



奨励賞
「緑彩の香り」
新崎綾子（可児市）



奨励賞
「哀しみのシンフォニー」
大平 進（本巣市）



奨励賞
「再生化学への塔」
田中泰彦（海津市）

ぎふ美術展賞 「曳山 鳥辺山心中」 八木君枝（愛知県）



優秀賞
「輪入道」
武本大志（茨城県）



優秀賞
「歩む」
大瀬直之（愛知県）



奨励賞
「浮游の兆し」
清水朋文（大垣市）



奨励賞
「ST鳥のヴァリエーション」
ヒサオ・カメヤマ（関市）



奨励賞
「ある場所、ある時間」
檜原みき（美濃市）



奨励賞
「金のニワトリ」
田中厚好（三重県）

ぎふ美術展賞 「越境する型」伊藤雄基（埼玉県）



優秀賞
「緑釉花器」
伊藤進矢（多治見市）



優秀賞
「型絵染 ひっそりと」
山根よ志枝（八百津町）



奨励賞
「威嚇」
市川公平（中津川市）



奨励賞
「静謐」
加藤 緑（中津川市）



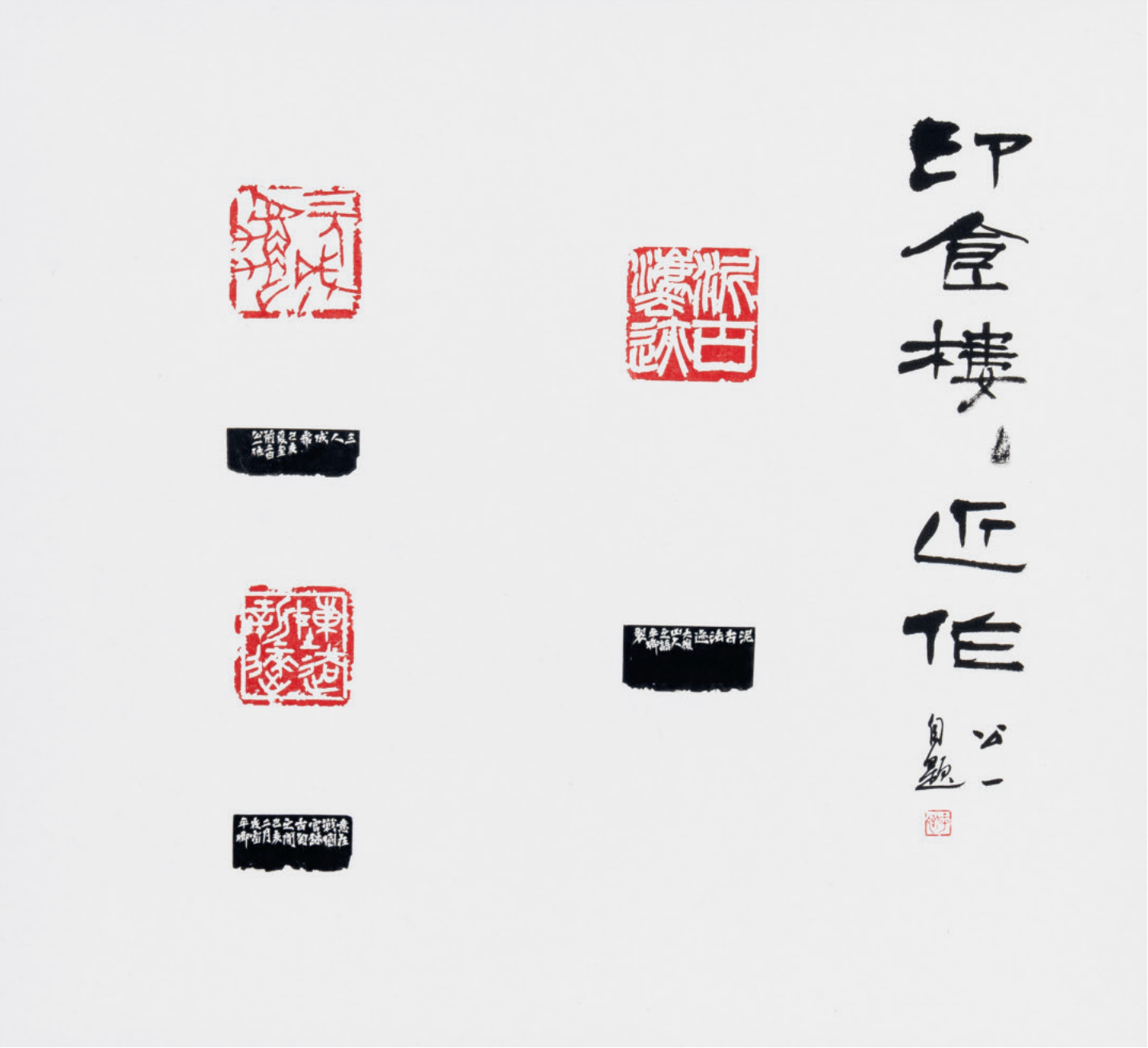
奨励賞
「石理の背中で思う」
浦野日臣（愛知県）



奨励賞
「蟲」
佐野邦巳子（大阪府）

ぎふ美術展賞

「近作三種」波多野公一（岐南町）



優秀賞
「女郎花」
梶田女理（美濃加茂市）



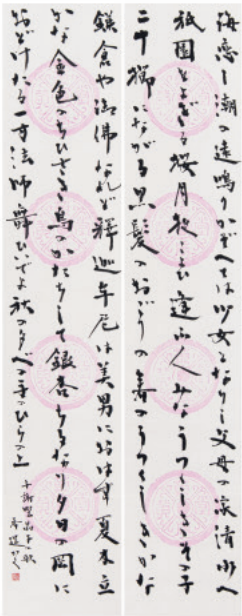
優秀賞
「唐詩二首」
牛田春煌（安八町）



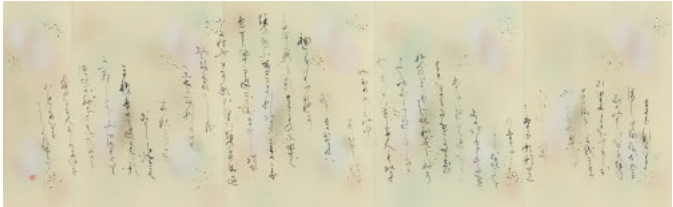
奨励賞
「勤哭」
浅野修竹（岐阜市）



奨励賞
「張説詩」
関谷蒼玄（瑞穂市）



奨励賞
「与謝野晶子の歌」
山田香遥（揖斐川町）



奨励賞
「山家集より十首」
古山玉扇（御嵩町）

ぎふ美術展賞 「感じる視線」 前原善彰（高山市）



奨励賞
「風船の旅」
堀江香菜（岐阜市）



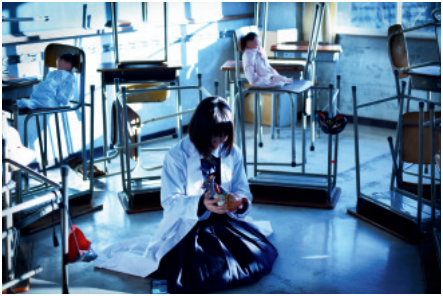
優秀賞
「悠久の刻を経て」
尾内治良（飛騨市）



奨励賞
「"LA MIA TAKAYAMA"」
Λ O V J（高山市）

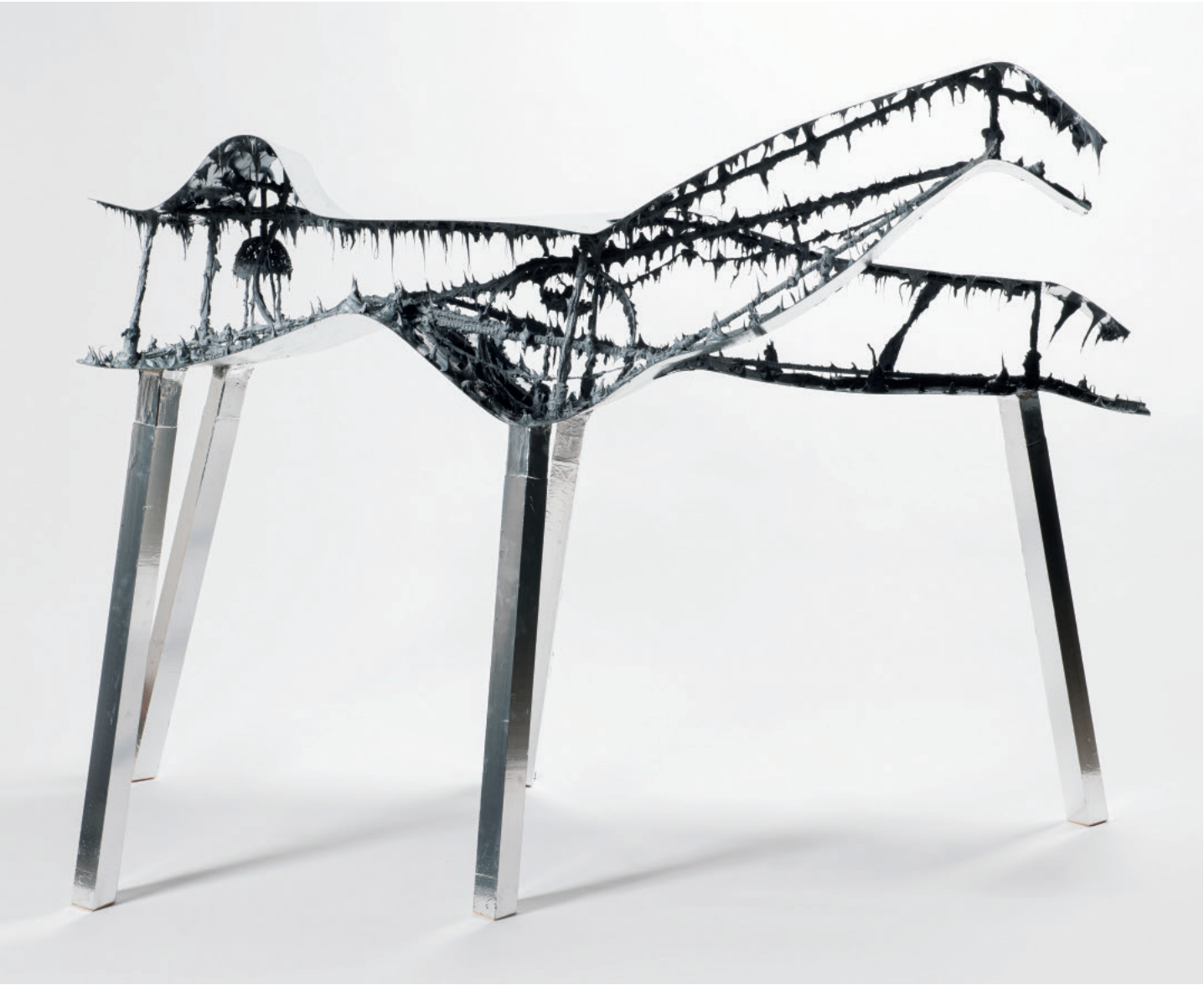


奨励賞
「大冒険」
猪子 昇（多治見市）



奨励賞
「鼓動の共鳴」
渡辺真由（可児市）

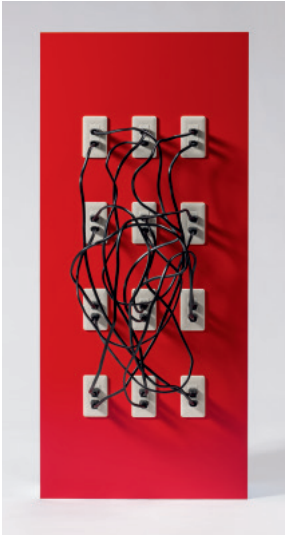
ぎふ美術展賞 「異空間」 古田長利（関市）



優秀賞
「風の音色」
渡邊正康（飛騨市）



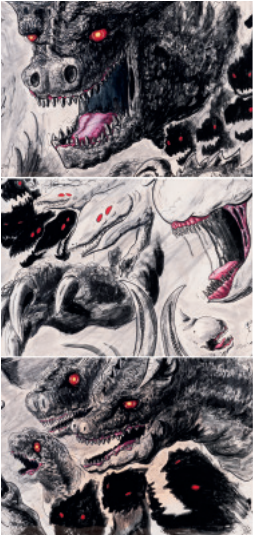
優秀賞
「Translucent Objects」
平瀬ミキ（千葉県）



奨励賞
「一度きりの人生ですもの。夢のひとつときを。」
ナガオ・アツシゲ（高山市）



奨励賞
「しなやか」
桑原こども園ぞう組（羽島市）



奨励賞
「個々」
青山裕史（瑞穂市）



奨励賞
「偶像崇拜」
古川愛望（笠松町）

出品目録

日本画

ぎふ美術展賞	鰐	藤井星夏	岐阜市
優秀賞	full bloom	佐藤正子	岐阜市
優秀賞	message in a bottle	青藍蒼	愛知県
奨励賞	椿つらつら	伊藤睦美	岐阜市
奨励賞	月に想う	長谷部やよい	可児市
奨励賞	雨やどり	浅井新太	下呂市
奨励賞	富貴	古川幸代	垂井町
入選	殖える、減る、いなくなる	石川宣春	岐阜市
入選	生の季節	葛西珠美	岐阜市
入選	玉垣しだれ梅	川地勲子	岐阜市
入選	Elephant	國井幸太郎	岐阜市
入選	山里の雪景色	酒井与八郎	岐阜市
入選	十歳の祝い	野村佳代子	岐阜市
入選	中秋の名月	平光利重	岐阜市
入選	遊	福田公美	岐阜市
入選	縁日	村瀬喜八	岐阜市
入選	私の菜園で	杉原秀氏	大垣市
入選	見る	高橋裕美子	大垣市
入選	早春の残雪	今井一雄	高山市
入選	紡がれる糸	酒井郁子	多治見市
入選	轟	佐藤宏夫	関市
入選	空白の2万年	加藤紀代子	美濃加茂市
入選	風景	安藤茉里	各務原市
入選	刻の花	川田美恵子	各務原市
入選	桂亭・奏	白木あやめ	各務原市
入選	臥龍桜	堀美佐子	各務原市
入選	荒路	真野由紀子	各務原市
入選	ポビー	山上朱實	各務原市
入選	石楠花	川井庸弘	可児市
入選	神将(戌)	鬼頭峰子	可児市
入選	岩桜	松下純子	山県市
入選	そよ風	大平智恵子	瑞穂市
入選	南国の植物達	豊田つや子	瑞穂市
入選	野分立つ	水野壽子	瑞穂市
入選	山車	近藤政男	本巣市
入選	カサブランカ	北村史子	垂井町
入選	高揚	佐々木將規	大野町
入選	チェコの街角の饗	佐野智恵子	北方町
入選	今年の蛍	前田さやか	東京都
入選	満月	阪本優子	愛知県
入選	蓮	高木俊一	愛知県

洋画

ぎふ美術展賞	穏やかな空間	小森啓子	岐阜市
優秀賞	明日来る夢	天野るみ子	中津川市
優秀賞	清流を求めて	古田清光	本巣市
奨励賞	鉄の街	鈴木昌義	中津川市
奨励賞	緑彩の香り	新崎綾子	可児市
奨励賞	哀しみのシンフォニー	大平進	本巣市
奨励賞	再生化学への塔	田中泰彦	海津市
入選	草相	赤堀美由紀	岐阜市
入選	ひまわり	阿部紘子	岐阜市
入選	麦畑と野中の家	阿部芳久	岐阜市
入選	マチのカタチ	安藤孝信	岐阜市

入選	無音	大塚佳美	岐阜市
入選	かざんの山	大西達也	岐阜市
入選	感情のおもむくままに	加藤つばさ	岐阜市
入選	少年生還	佐久間尚子	岐阜市
入選	川の讃歌	佐藤正己	岐阜市
入選	埴輪と静物	白木哲	岐阜市
入選	或る情景	杉浦佑治	岐阜市
入選	居醒の清水	関谷文子	岐阜市
入選	真夜中のファンタジー	竹内美代子	岐阜市
入選	明神からの流れ	田原智	岐阜市
入選	beyond	早川文彩	岐阜市
入選	族	林直樹	岐阜市
入選	金剛力士	白光坊	岐阜市
入選	工場	堀基章	岐阜市
入選	東京2020	松尾快斗	岐阜市
入選	サンブル	宮向井奈桜	岐阜市
入選	双子〜対照的な私達〜	村瀬未々果	岐阜市
入選	青の街	森岡啓子	岐阜市
入選	東京2020	山口知緒里	岐阜市
入選	DAIZU 〜命〜	渡辺莉紗	岐阜市
入選	東京2020	割田宗忠	岐阜市
入選	Party	荻下丈	大垣市
入選	生きる	久世久子	大垣市
入選	真昼の決闘	子安信夫	大垣市
入選	夢と糧と未来	篠田美保	大垣市
入選	時の流れ	高田鈴代	大垣市
入選	こおりめ	高橋栄子	大垣市
入選	郷愁	樋口廣久	大垣市
入選	紫陽花	藤野兵	大垣市
入選	憩い	馬淵友李	大垣市
入選	湧き立ちあがるもの	上屋美千弘	高山市
入選	夕暮れと駅	下出晏慈	高山市
入選	戯れ	柘植恒子	高山市
入選	トビタテ!	Yuko	高山市
入選	青し	有賀宣美	多治見市
入選	天空の舞	石神純一	多治見市
入選	冬の夜空	大島直美	多治見市
入選	この夏	後藤君子	多治見市
入選	プレゼントのバラ	前原喜美枝	多治見市
入選	川面に映る鷺	坪井喜代子	関市
入選	清流サポーター	深井　保正	関市
入選	甘い香りに誘われて	馬淵あき美	関市
入選	思い出	村瀬彩香	関市
入選	魂	森正俊	関市
入選	「流奏」	安部成信	中津川市
入選	Tからの伝言	上田さよ	中津川市
入選	刻の形象	牛越諒	中津川市
入選	Life…A	可知則雄	中津川市
入選	行き先は	可児花菜	中津川市
入選	大地の花	斉藤みえ子	中津川市
入選	光る夜	森本菜々	中津川市
入選	風の古道	市原萌恵	美濃市
入選	ある会議	小木曾由雄	瑞浪市
入選	夢の跡	須藤信利	瑞浪市
入選	凜として立つ	武田恭子	羽島市
入選	過ぎた日々	西志計利	羽島市
入選	Spiritual Road　神宿る道「熊野古道」	廣江由美子	羽島市

入選	雪	飯野真琴	恵那市
入選	夕映えのふる里	駒宮優子	恵那市
入選	over	澤田昌子	恵那市
入選	ずっと	千藤衣月	恵那市
入選	ほおずき	高橋天雅	恵那市
入選	悩み	塚田ひより	恵那市
入選	スポットライト	今瀬昭代	美濃加茂市
入選	岩村農村風景	恒川安正	美濃加茂市
入選	68才、旅	長谷川久代	美濃加茂市
入選	微笑みのタイ(ワットポー)	渡辺さゆり	美濃加茂市
入選	急斜地のある風景	鈴木清光	土岐市
入選	春に	林あかり	土岐市
入選	くつろぎの前	阿部芳久	各務原市
入選	朽ちた蔵	酒井勝正	各務原市
入選	青写真構築	島谷三千男	各務原市
入選	無心	高瀬茂美	各務原市
入選	クレヨン油の街	森千紗登	各務原市
入選	ドムートルンタワーの見える街角	秋松克明	可児市
入選	自然のままに	秋山克子	可児市
入選	女性の本性	タオジョン	可児市
入選	葉隠れ	洞田智子	可児市
入選	乱世異景の図	三浦英	可児市
入選	躍動	森本玲子	可児市
入選	新緑の金華山	小島由美子	瑞穂市
入選	世代交代までの季	野々山富子	本巣市
入選	射込む光	野崎庄司	郡上市
入選	何かを求めて上高地	真田雅江	笠松町
入選	無人寺	箕浦希生	笠松町
入選	躍動	貝沼千恵子	養老町
入選	木霊(樹令700年のイブキより)	近澤美穂子	養老町
入選	夕暮れ刻	中島邦彦	養老町
入選	伊吹の冬	片岡重保	垂井町
入選	犬を抱く女	内藤知之	垂井町
入選	ベビーマラカス　幸せの鈴	山口誉司	関ヶ原町
入選	昭和の時代	鹿野富子	神戸町
入選	初夏の中仙道妻籠宿	釣餌勝	神戸町
入選	冬仕度	小澤伸司	輪之内町
入選	遠望　寒中の伊吹山	白川勇一	揖斐川町
入選	運の一生	若原徹	揖斐川町
入選	光る風	若尾栄子	御嵩町
入選	カエルの復讐	浮橋美頭	富山県
入選	ナイトメア	青藍蒼	愛知県
入選	むつの背に死の翳宿り	大口良介	愛知県
入選	私のおもちゃ箱	小倉照江	愛知県
入選	space　1	小玉君子	愛知県
入選	第3楽章　　小長調作品75	鈴木孝治	愛知県
入選	尾道の朝	永井靖子	愛知県
入選	holiday	HARUZION	愛知県
入選	いつか行きたい場所	藤森麻里	愛知県
入選	この子の願いは。	松田玲子	愛知県
入選	草原のむこうに	山下友幸	愛知県
入選	モデルたち	山田皇	愛知県
入選	Presence -ここにある-	よしだまさこ	愛知県
入選	思郷	西田昇三	三重県

彫刻

ぎふ美術展賞	曳山　鳥辺山心中	八木君枝	愛知県
優秀賞	輸入道	武本大志	茨城県
優秀賞	歩む	大瀬直之	愛知県
奨励賞	浮游の兆し	清水朋文	大垣市
奨励賞	ST鳥のヴァリアシオン	ヒサオ・カメヤマ	関市
奨励賞	ある場所、ある時間	楢原みき	美濃市
奨励賞	金のニワトリ	田中厚好	三重県
入選	黒部ダム	安藤治	岐阜市
入選	ピアノソナタ「月光」	坂田隆	岐阜市
入選	わたしのカタチ	高橋玲子	岐阜市
入選	生命の讃歌	樋口勝彦	岐阜市
入選	疾風のように	大迫稔	大垣市
入選	Indecesion　行き戻る命	福井清治	大垣市
入選	赤いリボン	原田直政	多治見市
入選	葉っぱたち	深尾忠明	関市
入選	N氏　舞台	青木初彦	土岐市
入選	祈求	菅原光則	山県市
入選	和	竹林正治	飛騨市
入選	進化景色(絆)	土田義昌	千葉県
入選	次への笑顔	松山学	東京都
入選	WOMAN	空井智矢	愛知県
入選	火山	安川弘造	福岡県

工芸

ぎふ美術展賞	越境する型	伊藤雄基	埼玉県
優秀賞	緑釉花器	伊藤進矢	多治見市
優秀賞	型絵染　ひっそりと	山根よ志枝	八百津町
奨励賞	威嚇	市川公平	中津川市
奨励賞	静謐	加藤緑	中津川市
奨励賞	石理の背中で思う	浦野日臣	愛知県
奨励賞	蟲	佐野邦巳子	大阪府
入選	Desire	青豆若枝	岐阜市
入選	日本の四季	浅野芳信	岐阜市
入選	composition	加藤文太郎	岐阜市
入選	精霊山彦の仮面	北川りさ	岐阜市
入選	美濃萬古(型萬古)炭化タ円後手急須	久保田学	岐阜市
入選	スパイラル	纈纈勇	岐阜市
入選	春からのねぎらい(色の贈物)	小酒井多会子	岐阜市
入選	ふわり	坪田立江	岐阜市
入選	わた絵息吹の音色	長尾よしみ	岐阜市
入選	俵のネズミ	松原和子	岐阜市
入選	スパイダー	馬淵規子	岐阜市
入選	パディ	加藤敏一	大垣市
入選	バラダイス	古田則子	大垣市
入選	SILENCE 0	中島俊市郎	高山市
入選	gap(飛躍)	古川智恵子	高山市
入選	弥勒菩薩立像	石神千里	多治見市
入選	跳線紋花器	柴田満	多治見市
入選	纏う	長谷川幸孝	多治見市
入選	クリムト。オマージュ。	原田直政	多治見市
入選	純白の氷雪山	本田和晃	多治見市
入選	織部花器	後藤宮次	関市
入選	動植没園	大山乃愛	中津川市
入選	赫映姫	安藤英治	瑞浪市

入選	美清眼	小林ゆずな	瑞浪市
入選	銅の窯変	水野東三	瑞浪市
入選	Standing	加藤奨真	土岐市
入選	志野大皿	中垣英治	土岐市
入選	織部大鉢　－颯風－	中嶋徹	土岐市
入選	軍神俑	二十歩文雄	土岐市
入選	白の味	ちやわんむし	各務原市
入選	ひととき	那須寿美	各務原市
入選	立体タイル画　郡上八幡城2019	渡邊誠	各務原市
入選	手描き更紗絵図	馬場澄子	可児市
入選	古の煌き	打田紀久雄	山県市
入選	幽玄	馬淵たず子	神戸町
入選	softly	久島涼	東京都
入選	ぐるぐる	小川愛由	富山県
入選	キミの進む道	岡島由紀子	愛知県
入選	凜と立つ	戸田千晶	愛知県
入選	秋来感	土方輝	愛知県
入選	濃彩陶	山本昌弘	滋賀県
入選	共生	桃木野史雄	大阪府

書

ぎふ美術展賞	近作三種	波多野公一	岐南町
優秀賞	女郎花	梶田女理	美濃加茂市
優秀賞	唐詩二首	牛田春煌	安八町
奨励賞	慟哭	浅野修竹	岐阜市
奨励賞	張説詩	関谷蒼玄	瑞穂市
奨励賞	与謝野晶子の歌	山田香遥	揖斐川町
奨励賞	山家集より十首	古山玉扇	御嵩町
入選	「夢」	浅井詠鼓	岐阜市
入選	呉蘭雪詩	居上瑞穂	岐阜市
入選	曉過黄州	居波亜季	岐阜市
入選	泊石湖有懷	粥川絳音	岐阜市
入選	西句橋	小酒井彩花	岐阜市
入選	臨　曹全碑	小島七海	岐阜市
入選	韓畧詩	後藤紅葩	岐阜市
入選	杜甫詩二首	駒瀬公堂	岐阜市
入選	閃光	坂口新奈	岐阜市
入選	実朝の歌	清水青蘭	岐阜市
入選	蘭亭序	高島翠羽	岐阜市
入選	古意	戸崎瑛子	岐阜市
入選	王漁洋詩	戸本舟泉	岐阜市
入選	張羽詩	古田霄葩	岐阜市
入選	呉錫麒詩	山中麻由美	岐阜市
入選	桃源漁父行其二	吉田祥山	岐阜市
入選	劉嗣綰詩	今井理加	大垣市
入選	厲鶚詩	大野茂登枝	大垣市
入選	躍動	鶴長	大垣市
入選	鶴聴碁	本寒山	大垣市
入選	遊斜川	竹原悠崖	高山市
入選	道在邇	中野秋石	高山市
入選	白露	熊谷香峰	多治見市
入選	萬葉歌	西村清泉	多治見市
入選	對雪贈客	糟谷孝士	羽島市
入選	あはれとも	石田昌枝	各務原市
入選	偶桓詩	北澤素心	各務原市

入選	厲鶚詩	高橋芳翠	各務原市
入選	翁　方綱詩	林華香	各務原市
入選	季夢陽詩	前川絳邑	各務原市
入選	山家集　十首	浅野蛭雪	可児市
入選	縁	坂西由衣	山県市
入選	晚泊揚子江口述懷	近藤玉鳳	本巢市
入選	游春	平田竹庵	本巢市
入選	古意	山本祥仙	本巢市
入選	青嵐	加藤綾華	郡上市
入選	顔延之詩	松本紅華	郡上市
入選	山口青邨の句	中島千寿	海津市
入選	劉嗣綰詩	長屋純子	笠松町
入選	龍驤	高橋英隆	養老町
入選	昼照る星	高井敦史	垂井町
入選	七言律詩	青木桃子	北方町
入選	五言律詩	大野雅鳳	北方町
入選	登浮碧楼	郷清居	北方町
入選	嶺南道中	山田柏陽	北方町
入選	孫秋生劉起祖二百人等造像記	飯田希乃香	静岡県
入選	生輝	小野田萌加	静岡県
入選	大仁	坂井祐斗	静岡県
入選	李白詩	鈴木陽菜	静岡県
入選	一心	鈴木雄大	静岡県
入選	赤	田平雄飛	静岡県
入選	坐禅	増田波音	静岡県
入選	石鼓文	山本安代	静岡県
入選	清い流れ	横山晴乃	静岡県
入選	逢	井上邦江	愛知県

写真

ぎふ美術展賞	感じる視線	前原善彰	高山市
優秀賞	悠久の刻を経て	尾内治良	飛騨市
優秀賞	the sculpture of sensuous wall	大場遼平	東京都
奨励賞	風船の旅	堀江香菜	岐阜市
奨励賞	"LA MIA TAKAYAMA"	Λ ∪ V ∩	高山市
奨励賞	大冒険	猪子昇	多治見市
奨励賞	鼓動の共鳴	渡辺真由	可児市
入選	全力少年	赤塚百華	岐阜市
入選	何時とはなしに	石田菜絵	岐阜市
入選	宇宙	伊藤愛華	岐阜市
入選	鳥ざんまいパート2	岩田遼	岐阜市
入選	宵宮	小川珠世	岐阜市
入選	アクロパティック	小川典洋	岐阜市
入選	天使	加藤有菜	岐阜市
入選	長良の目覚め	可児芳春	岐阜市
入選	奏	近藤渚月	岐阜市
入選	ピカソの赤バス	境田和夫	岐阜市
入選	セーフティーパーク(3枚組)	田中清文	岐阜市
入選	霜中花	長野勝	岐阜市
入選	ちはやふる	長谷部遥	岐阜市
入選	帰り道の夕陽	林楓菜	岐阜市
入選	渓流の精霊	本間かよ	岐阜市
入選	共鳴	三島佳純	岐阜市
入選	書と向き合う	山田凌輔	岐阜市
入選	夕照の一夜城	市村茂雄	大垣市

入選	縁	臼井智子	大垣市
入選	原発と暮らす	大久保金行	大垣市
入選	雲上の日の出	久世和之	大垣市
入選	目隠しの意識	小山ひとき	大垣市
入選	旅立ちの朝	高木俊満	大垣市
入選	出現	林孝弘	大垣市
入選	寂想	林都美子	大垣市
入選	水はカメレオン	蒔苗友紀	大垣市
入選	光に向かって	水野靖弘	大垣市
入選	ゆく夏の大放物線	池戸比呂志	高山市
入選	パッチワーク	岩茸伸一	高山市
入選	舞込み	牛丸昭夫	高山市
入選	行く秋	遠藤明彦	高山市
入選	カメラ女子	桜木澄子	高山市
入選	忘れもの	下出晏慈	高山市
入選	薄氷	槇本洋子	高山市
入選	漆黒双景	原田尚幸	高山市
入選	神降臨	松山昇	高山市
入選	仮面舞踏会	山ノ内晃	高山市
入選	令和の光	代情岑郎	高山市
入選	デッサン	片桐寧々	多治見市
入選	神の集い	上手里紗	多治見市
入選	クライマックス	芳賀敏矩	多治見市
入選	孤鳥	松下裕志	多治見市
入選	リアルタイム	小澤重忠	関市
入選	峻巖の嶺へ	廣田昭男	関市
入選	放課後	間宮美波	関市
入選	彼は誰時	山村好春	関市
入選	継ぎ、消えぬ。	小池菜摘	中津川市
入選	薄氷	因幡純一	美濃加茂市
入選	波紋	大塚武	美濃加茂市
入選	孤高の春	傍島利一	美濃加茂市
入選	家神	山岡吉子	美濃加茂市
入選	中国少数民族　イ族の少女	青木益枝	土岐市
入選	日本刀鍛錬	大野智幸	各務原市
入選	放水始め	川島昭良	各務原市
入選	ムーン	東方桂子	各務原市
入選	透きとおる手	堀三千男	各務原市
入選	幸せな毎日	梅田莉乃	可児市
入選	鎌金術師	川合千晴	可児市
入選	spaceship	鈴木龍祐	可児市
入選	画面越しの世界	高橋良宜	可児市
入選	彩虹	中島梨花	可児市
入選	映る春	原美由紀	可児市
入選	虫の目線	藤田歩	可児市
入選	残像	藤田映理	可児市
入選	暗闇に咲き誇るエネルギーの華	山岡寛泳	可児市
入選	みんなのエール	北川明美	瑞穂市
入選	仮面の似合う廃墟	林道子	瑞穂市
入選	春の妖精	岡田則子	飛騨市
入選	華麗なる水面紅葉	重山照夫	飛騨市
入選	風の鼓動	畑中茂	飛騨市
入選	白いペールに包まれて(3枚組)	山田育夫	飛騨市
入選	長良川の水神	小野直貴	本巢市
入選	黒部の階段	尾藤知	郡上市
入選	清流の波紋	五島英明	岐南町
入選	至福の時	吉田由香	岐南町

入選	雪窓	江上瑠美子	垂井町
入選	釣り友	北嶋敏和	垂井町
入選	雨にけぶる	小竹久子	垂井町
入選	ひなまつり	富田佳信	垂井町
入選	躍動する町	神田茂利	川辺町
入選	未来を捨てないで。	尾崎鈴音	御嵩町
入選	ため息	翡翠	御嵩町
入選	生活感のある路地裏	轟木秀吾	埼玉県
入選	私たちは常に何かの前日にいた	中村正宏	東京都
入選	宙からの帰還	浅井裕子	愛知県
入選	秋思逍遙	幸島嘉宏	愛知県
入選	シンデレラ	深見真人	愛知県
入選	恵みの秋	渡部与明	愛知県
入選	静かな時間	神原好美	大阪府
入選	空へ	高木研麗	兵庫県

自由表現

ぎふ美術展賞	異空間	古田長利	関市
優秀賞	風の音色	渡邊正康	飛騨市
優秀賞	Translucent　Objects	平瀬ミキ	千葉県
奨励賞	一度きりの人生ですもの。夢のひとつきを。	ナガオ・アツシゲ	高山市
奨励賞	しなやか	桑原こども園ぞう組	羽島市
奨励賞	個々	青山裕史	瑞穂市
奨励賞	偶像崇拜	古川愛望	笠松町
入選	花笑み	臼井美江子	岐阜市
入選	細長いじゃがいも	工藤裕貴	岐阜市
入選	quartet	佐村知華	岐阜市
入選	ストライプの水平線	墨勝之	岐阜市
入選	『自然の恵み』	中谷八重子	岐阜市
入選	手をつなごう	hazama	岐阜市
入選	Installation View	馬淵英樹	岐阜市
入選	わたしが耳だけでおぼえたカナダ語	磯竹由美	大垣市
入選	ダルマの様なもの	影郎	大垣市
入選	イモムシ	帆足勇一郎	大垣市
入選	深淵	Delic Saike	多治見市
入選	Cube & Tube	土岐和幸	多治見市
入選	Collectors	栗田	恵那市
入選	笑ってるけど笑ってない	横関空悟	美濃加茂市
入選	HELP ME!	伊佐治孝文	土岐市
入選	至上の星	苦勞無	各務原市
入選	噂	杉浦朋華	各務原市
入選	新世界	鈴木健司	可児市
入選	A memoir	諸永ユウジ	可児市
入選	(エクセルアート)幻想と夢	中村龍美	山県市
入選	わた絵「傷ついても生きる」〜たった3色のわたを使って〜	堀田きよみ	本巢市
入選	日月	Masashi Ueda	郡上市
入選	喜びと苦悩	山下順子	郡上市
入選	新月の夜会	曾良貞義	下呂市
入選	また明日会おう	坂井隆	笠松町
入選	超未来戦艦　三笠	安田優輝	安八町
入選	(河×白)+(村×赤)=	河村泰宏	池田町
入選	いつか割れる	荻村達哉	愛知県
入選	樹ギター	長谷部勇人	愛知県
入選	夜	坪内愛梨	京都府
入選	飛騨の旭日〜天翔ける山々〜	田島秀子	奈良県

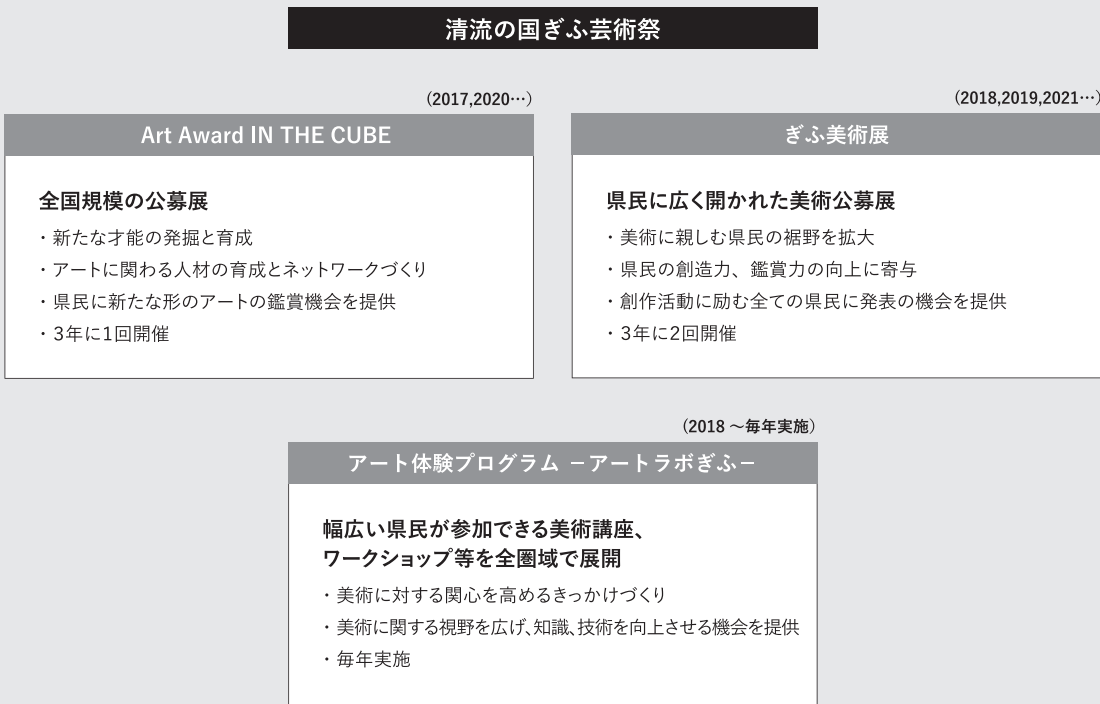
「清流の国ぎふ芸術祭」の概要

戦後間もない昭和21年から平成27年に至るまで69回の歴史を刻んだ「岐阜県美術展」は、時代の変遷や表現の多様化に対応した見直しによって、新たに「清流の国ぎふ芸術祭」として3つの事業を柱に展開しています。

1つめの柱は、2017年、想像力溢れる新たな才能の発掘と育成を目的に第1回が開催された、革新的な企画公募展「Art Award IN THE CUBE」。

2つめは、より広く県民に作品発表の機会を提供する公募展「ぎふ美術展」。

そして3つめの柱となるのが、年間を通じ、県内各地で様々なスタイルのプログラムを展開し、アートに親しむ場(ラボ)を提供するアート体験プログラム「アトラボぎふ」です。



清流の国ぎふ芸術祭 アート体験プログラム

アトラボぎふ

「アトラボぎふ」を通じて、“アート”は決して堅苦しく敷居の高いものではなく、人それぞれが感じたことを楽しくのびのび表現することで、人それぞれの価値観、多様性を、お互いが理解し合うことにつながるような、そんなきっかけになればと願っています。

この「アトラボぎふ」の一環として、「第2回ぎふ美術展」期間中にも様々なプログラムを開催しました。

クロストーク | 榎木野衣 × 日比野克彦

テーマ「創造と鑑賞（つくることとみること）」

クロストークのテーマである「つくることとみること」の「つくる」のが日比野氏で、「みる」のが榎木氏の関係は、30年程前から始まった。冒頭、日比野氏は生まれ育った土地や時代が「つくる」ことや「みる」ことに大きく影響を与えると問題提起。それを受け、榎木氏から「日比野さんに初めて会った頃『岐阜』という言葉が出たことはなかった」と振られると、80年代、90年代は地方よりも中央という方向が一つの価値観である時代にあって、まずは東京に行きたい、日本を出て海外へという思いがあり『岐阜』は出さなかったことを告げた。榎木氏自身も、埼玉県秩父市の出身であることをある時まで隠していた。小学校6年生の時に初めて海を見た時の衝撃を披露し、生まれた時から海がある人としては海に対するイメージが全然違い、生まれ育ったその場所が自分の感性の源泉だと分かり、以来、積極的に意識するようになったことを吐露した。すると「みる」ということに対して感覚が変わってきた。「自分の根っこにあるものを探していくと変えられないものがある。自分が生まれ育った場所というのは絶対取り替えがきかないもの。そういうことがみること、つくることと関係している」と応えた。

次に、日比野氏が、大学3年生の課題で初めて段ボールに書いたカレンダーの作品から始まり40数点の作品をスライドで紹介。段ボールで作品を「つくる」ようになったいきさつが紹介される。それを「みる」側の榎木氏は、「やはり、岐阜から出たいという気持ちがあったのではないか」と指摘。「生活の中で身近にない憧れの対象としてモチーフを選んでいる。今はまだ手が届かないものを身近な素材で置き換える気持ちが現れている」と分析。そして、従来の美術では肯定的に扱われてこなかった段ボールという華奢で軽く、形も変えられ、自分の憧れという形のないものをすぐに欲し

日 時：8月18日(日) 13:30 ～ 14:30

場 所：セラミックパーク MINO イベントホール

参加者：100人

いものとして表現できることが段ボールに注力する理由となっているとした。

日比野氏は、段ボール自体は平面だが厚みがあり空間がある紙なので、平面も立体も区別なく作っており、「自分の中で平面と立体の差がないように、作品と舞台、作家個人と観客というものがシームレスに自分の中では繋がっている」とし、それが現在の、岐阜県美術館長として新しい美術館の役割、東京藝術大学美術学部長として新しい大学の形というものを探求する原点となっている。

榎木氏が審査をした自由表現部門の話題も登場し、鹿の角「を」描くことを鹿の角「に」描くと勘違いした子どもとそれを助ける周りの人達の関係が込められた作品『しなやか』(奨励賞)について、榎木氏は「ああいうのが一つの自由表現のあり方」と評価。日比野氏は「「を」と「に」の取り間違いから作品が生まれる訳だから、いつでも作品が生まれるきっかけがあるか分からない。あの作品を観ると作り方も観方も変わる」と、本テーマの一つのあり方を示唆した。



クロストーク | 樋田豊郎 × 高橋秀治

テーマ「魂の不朽の表現としての装飾芸術」

最初に高橋氏から、1925年にパリで開催された「現代国際装飾美術及び工業美術の博覧会」(通称「アール・デコ博覧会」)のエスプリ・ヌーヴォー館において発表されたル・コルビジェの話から始まった。装飾芸術は排除し絵画と彫刻が魂の不朽の表現だとし、装飾芸術的なものは魂の不朽の表現とはならないとするル・コルビジェの考え方に対して、装飾芸術は本当に排除すべきものなのか、そうではないのではないかということが本日のテーマであることが告げられた。

そして、当時の日本では工芸は美術と同等であると考えていたのに対し、ヨーロッパでは応用美術とか産業美術の分野であり純粋な美術ではないと考えられていたことを高橋氏が話すと、樋田氏も、シカゴ博覧会(1893年)で美術品として出品した鷹の置物が工業製品部門に置かれたことに我慢できない日本関係者が夜こっそり忍び込んで美術館に置き直したという逸話を紹介。その鷹の置物は今では重要文化財に指定され数億円の値が付いていたであろうが、樋田氏が国立近代美術館の学芸員時代にそれを格安の値段で購入したエピソードも紹介された。

樋田氏は、「芸術の価値は国家の威信とか名誉と結びつくと価値が上がる。そうした価値観に反旗を翻し、デザインや形が良ければちゃんとそれ自体に価値があり、だから何もなくていい。工業製品の時代こそが価値がある」とル・コルビジェの考え方を分析し、その精神が世界中に蔓延し、多くの建築家の心を捉え、機能さえあればいいという考えで、中学校や高校の校舎が味もそっけもない豆腐を切ったような同じ形となったことにも触れた。

こうしたムーブメントに対して、樋田氏はそうじゃないだろうと言う。「む

日 時：8月24日(土) 13:30 ～ 14:30

場 所：セラミックパーク MINO イベントホール

参加者：56人

しろ魂にとって大切なのは、装飾を排除することではなくて装飾を大切にすること。だから、工芸を作っている人は手を動かしていればボケないということじゃなくて、もっと心の問題として一緒に作って鑑賞しましょう」と提案。さらに、「材料の選択においても社会のあり方や繋がりに関わっていて作品が出来ている。一見激しい表現がなくとも実は我々の人生の深い所で繋がっており、それが不朽の魂の表現となる」と訴えた。

それに関連して、高橋氏が工芸部門のぎふ美術展賞受賞者の「最初からこういう形を作ろうとして頭に描いたものに近づけるというよりは、材料と対話してその技術の中で形が見えてくる」という発言を紹介。そして、「土を扱う方にしても土自体の色々な性格がある。しかも、作っている人の癖が焼くとまた出てくる」と陶芸家から聞いた話も交えて、「工芸分野というのは、ある意味奥が深いなあと思うし、作家の思いが実は凄く込められているのではないか」と結んだ。

最後に、聴衆からの今後の工芸の展望についての質問に対し、樋田氏は、「地域の原料とか技術とか、そこにずっと繋がっている文化とか、そういうものを大切にするのがこれからの工芸だ」と持論を展開した。



特別企画 | 文化勲章受章者 **奥谷博講演会**

テーマ「芸術に終わりなし～挫折をバネに～」

日本芸術院会員で2017年に文化勲章を受章した洋画家・奥谷氏にとって、最初の画の先生は愛媛師範(現在の愛媛大学)を卒業した姉であった。それから芸術への挑戦が始まった奥谷氏の人生は、順風満帆な船出ではなかった。東京藝術大学へ二浪して入学。卒業後は専攻科に進学し、毎日現代展や独立美術協会展に落選。専攻科修了後、助手時代にも落選し、毎日現代展では出席を取っている先生(奥谷氏)が落選して4年生の学生が入選。こうした挫折の連続を経て今の奥谷氏がある半生を28点の作品を紹介しつつ語られた。

落選し続けた奥谷氏は凄く悩み、自分は絵描きになれるのかと思い始めた丁度その頃、大学の集中講義で新設された壁画科の担任も任されたことから、ウッチェロの作品を一生懸命模写し始めた。それが転機となり、これまで続けていた厚塗りの作品が薄塗りとなり、2年間ほど試行錯誤を続けた。ある時、独立美術協会の運営委員15人が藝大に立ち寄り、偶然研究室にあった奥谷氏の絵を観て「これは良くない。厚塗りの方がいい。」と言われた。時を同じくして当時芸大の教授だった山口薫先生からは「凄く面白い。いい。」と言われたことを人伝てに聞いた。15対1の真逆の批評に悩んだ末、薄塗りの作品を独立美術協会展に出すと奨励賞を受賞。その後、新人の登竜門である安井賞に出したところ、大賞は貰えなかったものの最後まで残ったことが知れ渡り、独立美術協会の先生方も「奥谷、やっぱりあれでいいのかなあ」と言い出した。こうしたエピソードを紹介し、「落選には凄く意味がある。落選したときにしよげないで、自分の思ったことを突き詰めていくことが重要」と語った。

奥谷氏は、第1回文化庁新進芸術家海外研修制度で1年間パリに行き、その後、絵一本で食べていきたいという思いを実現するため、親の反対を押し切って、愛知県立芸大の助教授の職を辞して再度渡仏した。その際に訪れた

アンドレ・マルローの空想の美術館展で展示してあった伝平重盛の絵を観て、「ああ、日本にもこんな良い作品があるんだ。向こうの人の真似ばかりしてはいけない」と感じた。南仏で観た1枚の絵が、「日本人の油絵というものを描かなければダメだ」と奥谷氏に強く決意させる契機となった。

帰国してから奥谷氏は「二次元の平面」を重要視するようになる。その技術の基本が芸大時代の石膏デッサンや人体デッサンから生まれており、姉の危篤の報を聞いて帰る途中に観た蓮の花や鷺など頭に残ったものを取り込んだ鎮魂絵2点を紹介し、「石膏デッサンは面白くないと思うが、やはりそういうことをやらないと、こうした二次元のデカイ平面に定着させることができない」と語った。芸術院賞を受賞した1点は奥谷氏が姉の手を抱えている自画像が描かれたもので、当時の美智子妃殿下から「いい供養ができましたね」とお言葉を掛けられ、作品で姉への恩返しができたと胸中を吐露した。

本日のテーマである「芸術に終わりなし」は奥谷氏の座右の銘。85歳になった今も、多い日には10時間でも絵を描き続けている奥谷氏は、「絵というのは落選とかそういうことではない。皆さんも芸術には終わりがないという気持ちで続けていってほしい。そうすれば何か見つかってくる」とエールを送った。



日 時：8月31日(土) 13:30 ～ 14:30
場 所：セラミックパーク MINO イベントホール
参加者：53人

きたうえで、暫くじっと観ていると一見して受けた印象とは違ったものが見えてくるような「意味の拡がる写真」と、行ったこともない見たこともない被写体が何か自分にとって大事なものに見えてくる、ものの見方が変わるような「人を巻き込む力のある写真」を挙げた。

続いて、前田氏は、「写真」は「真を写す」という意味があり、馬の脚が走っている時に宙に浮いていることを検証したマイブリッジの連続写真を紹介し、そうした人間が見ることができなかった真実を捉えるものが写真という側面がある一方で、森村泰昌のような作る写真で表現する時代になってきたことに対する石田氏の考えを問うた。石田氏は、東京都写真美術館の3万5千点もの膨大な所蔵作品の中から写真史に残る名作を織り交ぜながら、「記録と表現の境界がなくなりつつある状況にあって、「真を写す」というのは束縛である」と胸中を吐露した。そして、「意識の上で何か記録性にまだまだ縛られている。自由に撮ることでもっと可能性が拡がる」と訴えた。

最後に、前田氏は、「写真技術のデジタル化により、写真表現の内容もまた大きく変化しつつある。新しい時代の幕開けとしての、未だ見ぬ表現を期待している」という小林のりお氏の「第2回ぎふ美術展」応募者へのメッセージを紹介し、「まだまだ何かをお手本にして撮っている写真が多い。もっともっと自分だけの視点を意識して欲しい」と結んだ。



作品講評会 | **日本画・洋画**

講師：木本文平(日本画)、奥谷博(洋画)

日本画部門審査員の木本氏と洋画部門審査員の奥谷氏を講師に迎えて2部門を同時に開催。

冒頭、洋画部門の奥谷氏は、「少ない日でも3～4時間、多い日には10時間程絵を描いており、講評というより皆さんと一緒に絵を観ていきたい。評論的なことは木本氏に任せたい」との発言があり、講評を突然振られた木本氏は面食らいながらも長年にわたり培った知見で講評を加えていた。作者が参加している作品については制作意図を聞いたり、入賞作品に限らず講評を求める参加者にはそれに応じるなど、時として笑いも起きる和やかな雰囲気の中、まずは洋画部門、次に日本画部門の順で講評していった。

[洋画部門]

優秀賞「清流を求めて」 作者が感動しないと訴える力が出てこない。これは作者の感動が伝わってきて引き込まれていく。木の表現が単純なくらい形を乱暴に描いているが、こういうのがまた魅力になっている。《奥》
水が落ちるところ、光が向こうからフッと来るところに作者の受けた第一印象がこの絵の中に率直に表現されている。《木》

優秀賞「明日来る夢」 画面が生き生きしている。制作している時に、色々な作者の気持ちが画面の中を動いている。《奥》

奨励賞「緑彩の香り」 画面が綺麗。非常に単純な形に置き換えていて、非常に爽やかな訴える力がある。表現力を私は買う。《奥》
タイトルにある「香り」そのものが画面の中から湧き出てくるような良いイメージがあり、本当に好印象な作品。《木》

入選「岩村農村風景」 写真を見て描いたのを通り越して、大地の感じが凄く表現できている。デッサン力がある。写真を使ってはダメだと言う人もいるが、ピカソだって写真を使い描いている。写真を使いながら、それを自分のものにして描いていけばいい。《奥》

色面の作り方とか空間構成がしっかり計算されている。この感動を伝えるにはもう少し大きさがあってもいい。《木》

奨励賞「哀しみのシンフォニー」（「侘びと寂び」を表現するにはどうしたらよいかとの作者からの質問に対し）あまり「侘びと寂び」なんて考えない方がいい。絵に凄く生命力がある感じがするから。速水御舟は『向日葵』で葉っぱを虫が食っているところを克明に描いている。「朽ちたような」と仰っていたが、まさにそういう表現、気持ち、心構え、いいですね。《奥》

入選「時の流れ」 4枚のヒマワリの形の関係が面白い。生きている意味があるという感じがする。賞候補に挙がっていた作品。《奥》
とても力作だと思うが、ワッシャーの置き方が気になる。もう少しスッキリさせた方がいい。《木》

奨励賞「再生化学への塔」 ここに魅力感じたとか、美しいなあというものがないと良い作品は生まれない。まずは感動すること。この作品にはそれがある。塔と空との対比が非常に魅力的。背景を空色ではなく自分の色を見つけている。《奥》

工場にはあまり色彩を感じないが、微妙な色彩をこの中に入れている。美的



なものを感じていることが伝わってくる。《木》
入選「生きる」 賞をもたらった作品の隣にありながら決して見劣りしない。力強い作品になっているが、もう一つ何か出てきそうな気がする。それが何なのか探してほしい。《奥》
もう一つこの先の空間を絵画として表現できないか。見えないけれど向こう側を描く。それが生きる目標とか見えてくるものがあるのではないか。それが描けたら凄いなと思う。《木》

[日本画部門]

ぎふ美術展賞「鰐」 日本画は材料が非常に難しいが、その素材を上手く生かして鰐の質感とか量感とか、今にも動き出しそうな様を上手く表現している。課題としては、残された空間をどう処理していくか。《木》
非常にいい作品。ただ一つ、手の爪の形をもっとよく見て描いたらもっと良くなるのではないか。基本だが、人物を描くときに手の先とか、それをしっかり描くと締まる。《奥》

優秀賞「full bloom」（白で夜の桜の空気を出したかったとの作者の意図を聞いて）審査員は夜だとは思っていなかった。色彩は凄い、実に綺麗、よく削り落としていて、作者の色彩感覚の良さを感じた。《木》

作者の意図する気持ちが形になっていて、一つの平面に、非常に上手く、いい意味で表現になっていて、良い作品になっている。《奥》

優秀賞「message in a bottle」 デザイン感覚と写実的な要素がミックスして、バランスよく捉えた作品。特に日本画の場合は、一つの要素として、装飾性という意味合いがある。このデザイン感覚は日本画の本来的なものと相通ずるものがある。それを現代に生かしている。《木》

奨励賞「月に想う」 緑青を上手く表現して一色に纏めるのは非常に難しいが、これは真摯な状態で表現している。特に、月を背景にした葉っぱの色の微妙な違いは良く表現されている。花とシダ類と木の幹の関係がもう少し整理されれば、もっと良くなる。《木》

奨励賞「椿つつらつら」 杉本健吉は、感動することによって一つの表現、作品として生まれてくるとし、それを「感動受胎」と言った。絵を上手く描こうという邪心は入れずに自分の感動をいかに伝えるかが重要。装飾性が豊かな作品だが、あまりにも克明に描きすぎて、単純化すべきところは単純化するというメリハリをつけた方がこの絵画として成立する。《木》

奨励賞「雨やどり」 雨のラインが単調すぎる。竹内浩一という日本画家が非常にデリケートな雨の線を出しており参考になる。技術的にはかなりの方なので、もう少し線の研究をするとい。《木》

浮世絵に雨を描いているものがあるので、観てみるといい。《奥》
奨励賞「富貴」 緑青の使い方が難しいがよく消化されている。牡丹が同じような縮尺で入っているので、変化をつけると絵としてのメリハリが出てくる。《木》
花を描くときにはツボというものがある。椿だったら真ん中にツボがある。そういうものをポイントにして観ていくと作品がガラッと変わってくる。ただ描いているのではなく、それを見つけるのが作家として大切なこと。《奥》



作品講評会 | 彫刻・工芸

講師：黒川弘毅(彫刻)、樋田豊郎(工芸)

彫刻部門審査員の黒川氏と工芸部門審査員の樋田氏を講師に迎えて2部門を同時に開催。二人が対話する形で、お互いに感想を述べ合い、まずは彫刻部門、次に工芸部門の順で入賞作品を講評していった。最後に、黒川氏は、「キャリアとスキルがある方々が出されていて、結構粒ぞろい。作ることの楽しさを率直に感じさせるものばかりだった」、樋田氏は「審査して一番良かったと思うのは他県の人の方が多かったこと。工芸には素材とか技法で地域の特性があると繰り返し言ってきたが、それが全体を見渡すとよく出ている。こういう他流試合的な要素がぎふ美術展でずっと続くことを祈っている」と総括した。

【彫刻部門】

ぎふ美術展賞「曳山 鳥辺山心中」 子どもの像は実在するかのような個性を持ち、彫刻への意欲を感じさせる。人形的な技巧と背景の装飾的な構成には、日本の伝統的な人間表現と造形に対する関心が見られる。この羊毛の使い方は国内ではこれまでに目にかかれなかった。それを日本的な作法として成立させているのが凄い。

優秀賞「歩む」 よたって歩いているような不思議な動きを持っている。人間を越えた古い生命の力、モノノケの出現のような力を感じる。

優秀賞「輪入道」 材料、技術の高い水準の出品者たちの中でも、大変な技量を感じる。人を驚かせようという輪入道の図像に頼っているが、このテーマへの楽しいな思い入れが感じられる。

奨励賞「浮游の兆し」 コンクリートの形にデリケートさを感じる。観ていると色々な発見があって、何の変哲もないが、見飽きない。シンプルだがこの中に色々な世界を展開している。

奨励賞「金のニワトリ」 ブロンズという材料に対するスキルと愛着、そしてセンスの良さを感じる。ニワトリが逆立ちしている形が不思議で、独特な造形感覚を持っている。とてもクオリティの高い作品。

奨励賞「ある場所、ある時間」 色々なパーツが、すべて一つの木から彫り出されており、作者の尊い執念を感じた。印象派風の彩色が施されており、白木のままよりインパクトがある。

奨励賞「ST鳥のヴァリアシオン」 近代では排除されていた装飾性が豊かに蘇っている。作る喜びを形で表現する力を感じる。

【工芸部門】

ぎふ美術展賞「越境する型」 この形は作者の頭の中に最初からあったものではなく、叩きながら形が出来てくる。その人の持っている人間としての粘り強さ、根気強さ、そうした人間性そのものが全部形に移り移っており、全体の形が出来上がっている。そこが面白いと思った。

優秀賞「緑釉花器」 多治見の地場産業が育んできた伝統の重みをよく掴んでいる。本当によくできている。破綻がない。工芸は伝統と繋がっている。伝統をどう解釈していくかが工芸にとって重要だし、その伝統をどう解釈し

て自分の形として作り直していくかが重要。

優秀賞「型絵染 ひっそりと」 型絵染は本来は量産するために開発された技法。手で描いていたら大変。それをあえて使うことで芸術的な表現にまで変換させていく、その部分に面白さを感じた。樹木の部分をもう少し日本画としてしっかり筆を強く使って線が強くなっていけば、より型が生きてくる。

奨励賞「石理の背中で思う」 表はユーゲント・シュティールで好まれた神秘的な裸婦像、裏はゴーギャンが行ったタヒチの娘のようなレリーフ、この組み合わせが工芸から出てくる面白さを感じた。日本文化を象徴するような杉の板の上に外国の異質な表現を組み込んでおり、日本でしか表現できないもの。

奨励賞「静謐」 現代日本の装飾の典型だが、その中で、ひび割れた文様の付け方に独自性があって新鮮さを感じた。こうした文様は吊るすのではなく額に入れると持っている天分が強調される。

奨励賞「威嚇」 超絶技巧の伝統の中で作ってはいるが、自分の目で鳥を見ており、可愛らしさ、愛らしさを首のあたりから頭、目玉にかけてしっかり掴んでいる。いわゆる形ばかりの伝統を越えていこうとする熱意が凄く強いと感じた。作るということの原点を喜んでいる感じがする。

奨励賞「蟲」 日常のベタな部分を忘れていない、そこを大切にしつつ芸術とは何かを考えている、そこに好感が持てた。良い意味での飴細工。そうした育んできた価値みたいなものがあって、その造形を芸術に置き換えている。こうした繊細で危険なくらい脆弱だが、そこに挑む技や細工に対する愛着が生きているのが日本の工芸。

日 時：8月24日(土) 15:00 ～ 16:00

場 所：セラミックパークMINO 展示ホール
参加者：54人

作品講評会 | 書

講師：島谷弘幸

書部門審査員の島谷氏を講師に迎えて開催。冒頭、島谷氏は書の見方について話した。その際に最も大切なものは、全体の「調和」であり、次に、文字に書かれている「線」、そして「造形」。「造形」は練習に練習を重ねるといい感覚が身につくが、「線」は色々な古典を観ながら学習しないと自分が好きな線質が書けない。そこで無理をすると「造形」も「調和」も壊れる。そのリズムは書だけやっても身につかない。書は書だけの感覚ではなく、音楽とかスポーツとか他のアートと共通するものがある。他のアートを勉強することで書も変わってくるので、他の分野の勉強も一緒にやってほしい」と持論を展開。さらに、古典を勉強して技術を習得することの重要性を説き、「当時の美意識を自分の中に入れながら、今の書はどうあるべきかを絶えず迷いながら考えることが肝要」と加えた。

続いて個別の作品講評を始めた。「第2回ぎふ美術展」での印象として、漢字部門のレベルの高さに驚いたと感想を述べる一方で、印の選択や押印への配慮が総じて不足しているとして、「最後の落款、印章までが作品だと念頭に置いてほしい。印の良し悪しも評価の対象になる」と力説した。その成功例として、ぎふ美術展賞を受賞した篆刻の『近作三種』や奨励賞の『慟哭』を高く評価した。

優秀賞の『女郎花』は、「墨の濃淡のバランスが良く、太くて力強い線とスツと筆の弾力を使ったような線が生き生きとしている」、同じく優秀賞の『唐詩二首』についても、「筆の遲速があって爽やかな線が引けている」と評価し、「墨がよく入っているところ、伸びやかなところが気持ちいい作品。上手いだけではなくその作品の品格が求められる」として「線」の重要性を説いた。

日 時：8月25日(日) 15:00 ～ 16:00

場 所：セラミックパークMINO 展示ホール
参加者：40人

島谷氏の作品講評では、随所に音楽、囲碁、アイススケートなど書以外の他分野の話も登場。若冲の『動植綵絵』や狩野芳崖の『悲母観音』といった代表作のある作家のように同じ形を貫くことが早道かもしれないかと断ったうえで、書家の青山杉雨の言葉「一作一面貌」を紹介し、「一つの作品ごとに表情を変えてローテーションしながら出来上がる方が螺旋で上がっていく」と説明した。

最後に、「師匠が勉強したもの、或いはそれ以外のものを勉強することによって師匠より上に行く感性を養う必要がある。感性が養えれば技術は後からついてくる。日々技術を養いながら感性も養っていくと、それが上手く調和したときに良い作品が生まれる」とエールを送った。



作品講評会 | 写真

講師：石田哲朗

写真部門審査員の石田氏を講師に迎えて開催。最初に石田氏から作品の感想として、「色々な年代の方の色々な視点がある。素直で楽しい写真が多い。この一瞬を残したいという気持ちから始まって、その先には自分らしさとかオリジナリティとは何なのかを意識しなければならない」との発言があり、写真を撮る側ではなく観る側としての視点から、主な作品について講評した。最後に参加者から要望のあった作品についても講評を加えた。

ぎふ美術展賞「感じる視線」 一見、パッと目に留まる作品ではないが、よく観ると光と影のドラマがある。暗い部分にはキャラクターなどいくつかの発見があり、奥行きが感じられる。スナップショットの表現として形になっている。偶然性という要素がある魅力的なスナップショット。

優秀賞「悠久の刻を経て」 非常に大画面で、精密に細部まで捉えられている。モノクロの作品として見ごたえのある1点。

優秀賞「the sculpture of sensuous wall」(デジタル作品) 現実にある風景を捉えたものではなく、パッと見、だまし絵的なところがあって、リアルなのかフィクションの世界なのか惑わされる。時間をかけて作られた作品だと感じられ、そうしたクオリティの面でも優秀賞とした。

奨励賞「風船の旅」 若い感じの、素朴に喜びを伝えている作品で、その感じが明るく楽しい色彩の中で現れている。会場全体が生き生きした感じになる作品。

奨励賞「"LA MIA TAKAYAMA"」 風景の中に抽象的なものがあって、光と影で画面を構成している作品らしい作品。少しだけの要素で出来上がっているが、高山の伝統的な街並みまでを連想させる深みのある写真になっ

日 時：8月31日(土) 15:00 ～ 16:00

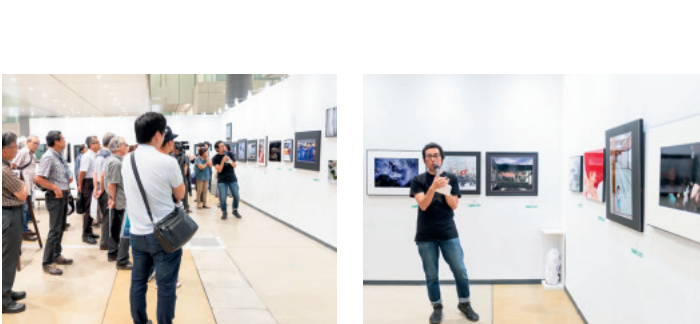
場 所：セラミックパークMINO 展示ホール
参加者：62人

ている。

奨励賞「大冒険」(デジタル作品) ファンタジーでユーモラス、ポエティックなところがあり、合成でそれを作り出しているが、本当にこういう場面があるのかなと錯覚するような、そうした魅力がある作品。

奨励賞「鼓動の共鳴」(デジタル作品) 応募作品には学校生活の場面がいくつかある中で、少し異質な作品。独特の創造の世界とでもいうか、フィクションの世界みたいなところがあって、色々な物語的なものが感じられる。

そのほか主な作品を観ながら、「最初に観た第一印象ともう1回観た時の印象がさらに違う」「観る側にこの後どういったストーリーがあるのかと想像させる面白さがある」「最終的に共感できるかどうかが重要」などと講評するとともに、「小さなプリントではそこにいるような感じが伝わってこないため大きさも大事」「背後にあるストーリーまで伝えるには何点が組み合わせることが必要」と技術的なアドバイスも加えた。



作品講評会 | 自由表現

講師：榎木野衣

自由表現部門審査員の榎木氏を講師に迎えて開催。まず入賞作品から、次に希望する参加者の作品の講評を行った。作家がいる作品については作家との対話を重視。榎木氏は「自由表現には上手い・下手はない。魅力的かどうかであって、それは観ている人が引き出す。そこが自由に繋がっている」として、「とにかく自由な表現だから臆せずにどんどん応募してほしい」とエールを送った。

ぎふ美術展賞「異空間」 高さがいい。これより低くても高くてもこの感じは出ない。屈みこんで観るとこの作品の複雑さ、魅力が見えてくる。わずか数センチの視線の移動で全然違う世界が見えてくる。それが凄くダイナミック。逆に脚の付き方など華奢で、アルミホイルで巻いたような曖昧な感じもいい。全体のアンバランスさがとても良い。

優秀賞「Translucent Objects」(映像作品) 押しつけがましくない微妙な音がすることによって、ありえない空間だが物としての質感が出ており、そのパランスが絶妙。色の使い方や前景と背景の重なりなど巧みに作られている。絵画のキュビスムの発想が仮想空間の中に適用されている。

優秀賞「風の音色」 彫刻は近代以降観るものになったが、これはさわってもいい。さらに踏み出して音がする。観る、さわる、聞く、感じる、それらが層のように重なっていて、色々な体験ができる。

奨励賞「個々」 怪獣に個性は語られないが、実は怪獣にこそ個性があって、それを描き分けることをすごく意識している。観ているうちにそれらが折り重なって見えてくる工夫がされており、発見の楽しさがある。この世界観をより拡張して行って欲しい。期待を込めて奨励賞に選んだ。

ワークショップ

【出張版】MoMCA の小さな図工室@ぎふ美術展

MoMCAとは、岐阜県現代陶芸美術館“Museum of Modern Ceramic Art Gifu”の略称。「MoMCAの小さな図工室」は岐阜県現代陶芸美術館が主催するワークショップで、みて、きいて、つくって、かんじて、もっともっとなきものや美術表現を楽しんでもらうために、感性をくすぐる様々なプログラムが用意されている。今回、「第2回ぎふ美術展」の開催に合わせて「MoMCAの小さな図工室」が出張し、小さな子どもでも気軽に参加できるよう、様々な素材を使った日替わりのワークショップを開催した。

メニューは、「紙工作」「オープン陶土」「切り折り紙」「プラバン工作」の4種類。「紙工作」のワークショップでは、和紙や色紙を素材として、様々な工夫した色や形を重ねたり組み合わせたりしてオリジナルの葉を作った。「オープン陶土」のワークショップでは、オープンで焼成することができる土を素材として、印花や型、木のヘラなど使って模様を刻みオリジナルメダルを作った。「切り折り紙」のワークショップでは、予め準備されていた厚紙の折り紙をハサミで切ったり、山折り・谷折りしたりしてクワガタやテントウムシを作った。「プラバン工作」のワークショップでは、プラスチックの板を好きな形にカットしたり、好きな色のマーカーで彩色を施したりしてメダルをデザインし、



奨励賞「しなやか」 文章が重要で、手書きだから伝わってくるものがある。予期せぬ複雑な出会いがあって、心温まるし、楽しい。ちょっと佻しくもあるし、不思議な感じを醸すものになっている。失敗がむしろ皆の発見に繋がりが、こんな素敵な作品になる。こういう図画教育はないし、一人の能力にも還元できない。色々なところで応用できるかもしれない。作った人はもちろん、観る人にとっても励みになるのではないか。

奨励賞「一度きりの人生ですもの。夢のひとつときを。」 我々の生活が常に社会と繋がって成り立っていることに対するアイロニーがある。入り組んだ世界で常に混乱しながら生きていることのイラストでもある。

奨励賞「偶像崇拜」 思いのほか複雑に層を成していて、部分の切り取り方、吹き出しのマスクング、そこから垂れている細部など絵でしか作れない世界になっている。日付やサインなど異質な要素にも発見の楽しみがある。



日 時：8月19日(月)～22日(木)、26日(月)、27日(火)
各日10:30～12:00、13:30～15:00
場 所：セラミックパークMINO 小会議室 参加者：148人

最後にオープントースターで焼き上げてオリジナルメダルをつくった。誰でも、簡単に、短時間で表現できる素材を活用し、それぞれの技能に合わせて楽しみながら表現する姿がたくさん見られた。「MoMCAの小さな図工室」開催期間では、大人から小さな子どもまで多くの方が入れ替わり立ち替わり会場に足を運び、日替わりで開催されるワークショップを楽しんでいた。特に幼稚園児や小学生にとっては、夏休みの良い思い出となったであろう。

「第2回ぎふ美術展」をPRするため、7月7日(日)に土岐プレミアム・アウトレットにおいて「コロコロベッタン みんなで大きな絵をえがこう!」を開催した。このワークショップでは、300人を超える子どもたちがのびのびと楽しく絵を描いた。そこで表現された“作品”を、この「MoMCAの小さな図工室」の会場にも展示した。

また、「1点トーク」と称して、展覧会場内で出品作品を味わう対話による鑑賞会を開催した。入選作品の中から、1日に1作品を学芸員が紹介し、来場者とともに対話による美術鑑賞に取り組んだ後、作者が登場し、突然の作者の登場に驚く来場者に対し、作者自身の作品の解説や思いを伝えた。



AAIC 関連ワークショップ

光をつかむカタチ～影をつくる素敵な道具づくり～

想像力溢れる新たな才能の発掘と育成を目的にした革新的な企画公募展「Art Award IN THE CUBE(以下「AAIC」という)。「ぎふ美術展」と同じく「清流の国ぎふ芸術祭」を構成する3本の柱のうちの一つであり、同芸術祭の3年のサイクルのうち、ぎふ美術展が開催されない1年に開催するものである。2017年に第1回目となる「AAIC2017」を開催し、約3万8千人の方々にご来場いただき多くの好評を得たところ。今回は、「第2回ぎふ美術展」の開催に合わせてAAICを広く周知し、現代アートを肌で感じていただこうと、AAIC2017の入選作家である中村潤氏によるワークショップを行った。

AAIC2017では、大きなキューブ型の空間の中に紙と糸を縫って巨大な紙袋を作り、そうして見えるものを通して、身体の先にある「記憶」や「経験」を呼び起こすというコンセプトで作品を制作した中村氏。

「光をつかむカタチ～影をつくる素敵な道具づくり～」と銘打たれた今回のワークショップは、あらかじめ形が決められた作品を制作するものではない。参加者は、セロファンや紙、ひも、プラスチックなどのあらゆる素



アートをめぐるスタンプラリー

東濃アートめぐり

東濃地方での「第2回ぎふ美術展」開催を記念して、会期中に「ぎふ美術展」に来場又は県内で開催中の「アートラボぎふ」のプログラムに参加し、13の参加施設で鑑賞された方の中から抽選で岐阜県の名産品などをプレゼントするスタンプラリーを開催した。

ご家族連れなど多くの方にご参加いただき、92名、184口の応募があった。多い方では6箇所施設を巡り応募された方もみられた。また、県外からも多くの方にご参加いただき、愛知県をはじめ約1/3が県外の方であった。

厳正なる抽選の結果、選べる岐阜県産品5千円相当を5名の方に、同じく選べる岐阜県産品3千円相当を13名の方に、美濃焼夫婦湯呑み(土岐市美濃焼伝統産業会館提供)を2名の方に、「東濃アートめぐり」参加施設ペア鑑賞券(各施設提供)&クリアファイル(サイエンスワールド提供)を30名の方にそれぞれプレゼントした。

マップ

参加施設は、岐阜県内各地に点在しています。参加施設の詳細情報は、参加施設ごとに掲載されています。

参加施設

1. 岐阜県立美術館
2. 岐阜県立陶芸美術館
3. 岐阜県立工芸美術館
4. 岐阜県立民俗資料館
5. 岐阜県立歴史博物館
6. 岐阜県立自然史博物館
7. 岐阜県立科学館
8. 岐阜県立図書館
9. 岐阜県立美術館
10. 岐阜県立工芸美術館
11. 岐阜県立民俗資料館
12. 岐阜県立歴史博物館
13. 岐阜県立自然史博物館

応募方法

1. 参加施設ごとにスタンプラリーに参加する。
2. スタンプラリーに参加した施設ごとにスタンプを押す。
3. スタンプラリーに参加した施設ごとにスタンプを押す。

応募期限

2019年7月21日(火)～10月31日(火)

抽選方法

抽選は、抽選委員会が実施する。

抽選結果

抽選結果は、抽選委員会のウェブサイト上で発表される。

お問い合わせ

お問い合わせは、抽選委員会のウェブサイト上で実施される。

ぎふ美術展
GIFU ART EXHIBITION

アートをめぐるスタンプラリー
東濃アートめぐり
TOYOU ART TOUR

2019年7月21日(火)～10月31日(火)

岐阜県立美術館
岐阜県立美術館は、岐阜県内各地に点在しています。参加施設の詳細情報は、参加施設ごとに掲載されています。

岐阜県立陶芸美術館
岐阜県立陶芸美術館は、岐阜県内各地に点在しています。参加施設の詳細情報は、参加施設ごとに掲載されています。

岐阜県立工芸美術館
岐阜県立工芸美術館は、岐阜県内各地に点在しています。参加施設の詳細情報は、参加施設ごとに掲載されています。

岐阜県立民俗資料館
岐阜県立民俗資料館は、岐阜県内各地に点在しています。参加施設の詳細情報は、参加施設ごとに掲載されています。

岐阜県立歴史博物館
岐阜県立歴史博物館は、岐阜県内各地に点在しています。参加施設の詳細情報は、参加施設ごとに掲載されています。

岐阜県立自然史博物館
岐阜県立自然史博物館は、岐阜県内各地に点在しています。参加施設の詳細情報は、参加施設ごとに掲載されています。

岐阜県立科学館
岐阜県立科学館は、岐阜県内各地に点在しています。参加施設の詳細情報は、参加施設ごとに掲載されています。

岐阜県立図書館
岐阜県立図書館は、岐阜県内各地に点在しています。参加施設の詳細情報は、参加施設ごとに掲載されています。

岐阜県立美術館
岐阜県立美術館は、岐阜県内各地に点在しています。参加施設の詳細情報は、参加施設ごとに掲載されています。

岐阜県立工芸美術館
岐阜県立工芸美術館は、岐阜県内各地に点在しています。参加施設の詳細情報は、参加施設ごとに掲載されています。

岐阜県立民俗資料館
岐阜県立民俗資料館は、岐阜県内各地に点在しています。参加施設の詳細情報は、参加施設ごとに掲載されています。

岐阜県立歴史博物館
岐阜県立歴史博物館は、岐阜県内各地に点在しています。参加施設の詳細情報は、参加施設ごとに掲載されています。

岐阜県立自然史博物館
岐阜県立自然史博物館は、岐阜県内各地に点在しています。参加施設の詳細情報は、参加施設ごとに掲載されています。

「東濃アートめぐり」参加施設
イベント企画展情報

1. 岐阜県立美術館
2. 岐阜県立陶芸美術館
3. 岐阜県立工芸美術館
4. 岐阜県立民俗資料館
5. 岐阜県立歴史博物館
6. 岐阜県立自然史博物館
7. 岐阜県立科学館
8. 岐阜県立図書館
9. 岐阜県立美術館
10. 岐阜県立工芸美術館
11. 岐阜県立民俗資料館
12. 岐阜県立歴史博物館
13. 岐阜県立自然史博物館

参加施設

1. 岐阜県立美術館
2. 岐阜県立陶芸美術館
3. 岐阜県立工芸美術館
4. 岐阜県立民俗資料館
5. 岐阜県立歴史博物館
6. 岐阜県立自然史博物館
7. 岐阜県立科学館
8. 岐阜県立図書館
9. 岐阜県立美術館
10. 岐阜県立工芸美術館
11. 岐阜県立民俗資料館
12. 岐阜県立歴史博物館
13. 岐阜県立自然史博物館

応募方法

1. 参加施設ごとにスタンプラリーに参加する。
2. スタンプラリーに参加した施設ごとにスタンプを押す。
3. スタンプラリーに参加した施設ごとにスタンプを押す。

応募期限

2019年7月21日(火)～10月31日(火)

抽選方法

抽選は、抽選委員会が実施する。

抽選結果

抽選結果は、抽選委員会のウェブサイト上で発表される。

お問い合わせ

お問い合わせは、抽選委員会のウェブサイト上で実施される。

「東濃アートめぐり」参加施設
イベント企画展情報

1. 岐阜県立美術館
2. 岐阜県立陶芸美術館
3. 岐阜県立工芸美術館
4. 岐阜県立民俗資料館
5. 岐阜県立歴史博物館
6. 岐阜県立自然史博物館
7. 岐阜県立科学館
8. 岐阜県立図書館
9. 岐阜県立美術館
10. 岐阜県立工芸美術館
11. 岐阜県立民俗資料館
12. 岐阜県立歴史博物館
13. 岐阜県立自然史博物館

参加施設

1. 岐阜県立美術館
2. 岐阜県立陶芸美術館
3. 岐阜県立工芸美術館
4. 岐阜県立民俗資料館
5. 岐阜県立歴史博物館
6. 岐阜県立自然史博物館
7. 岐阜県立科学館
8. 岐阜県立図書館
9. 岐阜県立美術館
10. 岐阜県立工芸美術館
11. 岐阜県立民俗資料館
12. 岐阜県立歴史博物館
13. 岐阜県立自然史博物館

応募方法

1. 参加施設ごとにスタンプラリーに参加する。
2. スタンプラリーに参加した施設ごとにスタンプを押す。
3. スタンプラリーに参加した施設ごとにスタンプを押す。

応募期限

2019年7月21日(火)～10月31日(火)

抽選方法

抽選は、抽選委員会が実施する。

抽選結果

抽選結果は、抽選委員会のウェブサイト上で発表される。

お問い合わせ

お問い合わせは、抽選委員会のウェブサイト上で実施される。

日 時：8月18日(日)11:00～13:00、14:30～16:00

場 所：セラミックパークMINO 小会議室

参加者：21人

材から好きなものを自由に選び、様々なカタチを作っていった。さらに、その影を壁に映して確かめながら、動かしたり揺らしたりして、気に入った影ができるような素敵な道具づくりを行った。「自由に選んで作る」ということに対し、初めは戸惑う方も見られたが、中村氏が参加者の想像を促していくことで、子どもから大人まで、幅広い層の方々が「素敵な道具づくり」を楽しんだ。

参加者からは、「好きな色がきれいに影になっていて面白い」「展覧会を見るだけと思って来たが、思いがけず素敵な体験ができて良かった」といった声をいただき、また、中村氏も「皆さんの自由な発想にすごく刺激を受けた」ということで、講師と参加者の間にも良い相互作用が生まれるワークショップとなった。

2020年4月には、第2回目となる「AAIC2020」がいよいよ開催される。どのような作品を見ることができるのか、個性豊かな力作との出会いを大いに期待したい。

期 間：7月2日(火)～10月31日(木)

参加施設：荒川豊蔵資料館(可児市)

可児郷土歴史館(可児市)

土岐市美濃焼伝統産業会館(土岐市)

こども陶器博物館(多治見市)

多治見市美濃焼ミュージアム(多治見市)

岐阜県現代陶芸美術館(多治見市)

市之倉さくづき美術館(多治見市)

多治見市モザイクタイルミュージアム(多治見市)

土岐市美濃陶磁歴史館(土岐市)

瑞浪市陶磁資料館(瑞浪市)

サイエンスワールド(瑞浪市)

熊谷守一つけち記念館(中津川市)

中山道広重美術館(恵那市)の13施設



応募要項

第2回ぎふ美術展応募要項

主 办 / 岐阜県、岐阜県美術館、岐阜県現代陶芸美術館、公益財団法人 岐阜県教育文化財団

趣 旨

東南に近しい民衆の啓蒙を拡大し、民衆の知識・鑑賞力の向上に寄与するため、創作活動に積極的に参加し、文化を享受する機会を提供する公益展（「書き美術展」を開催します）

部 門

日本画・洋画・彫刻・工芸・書・写真・自由表現

展 覧 会
日時・会場

2019年8月17日(土)～9月1日(日) 10:00～18:00
(8月17日は14:00開演、最晩日(4:30まで) (大塚会場)
○入賞・入賞作品発表会(8月25日)
○8月17日(土) 13:30～ 表彰式・開演式
セラミックパークMINO 岐阜県多治市東市川4-2-5

応募資格

制限ありません

応募点数

1部門につき31人1点

賞状

1点につき2,000円 (ただし、大塚会場にて応募する方が1000円、最晩日及び最晩日の書き美術参加者の方には特別賞状をいただきます。2019年8月17日において、海外向け・福祉支援型作品等応募する場合は、またはいかなる賞状もありません。彫刻・工芸・書・写真の分野は賞状(コピー用紙)を、彫刻以外の作品は賞状(大塚会場)の両方を提出してください。小・中・小学生は、賞状(コピー用紙)を提出してください。写真部門はデジタルデータのみ提出される方向です。応募作品は、応募後、写真・彫刻・工芸・書・写真の分野は、審査員が選定した作品を、写真部門は、応募者へ返却いたします。)

抽 選

4月1日(月)から7月17日(金)までの期間中に抽籤までに応募品またはデジタルカードにより交付してください(応募品は抽籤前にお取り返しできません。また、いかなる応募品も返されません。抽籤は抽籤当日に行われます。)
【抽籤の抽合】 下記いずれのいずれかの口座へお振込みください
お振込み手数料は、応募者におきましてご負担ください。

応 募 料

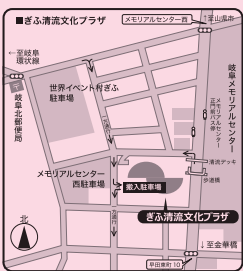
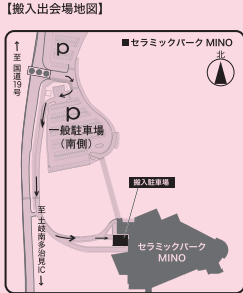
送付先・銀行 口座番号 00880-2-16468
入賞者名 公益財団法人岐阜県芸術文化振興財団
十六銀行
口座番号 支店 昭比ふたばの会創設部
支店名 昭比ふたばの会 03707182
支店名 ザイゴバンクキョウイクウツクワンサザン
大塚西武銀行 支店名 ザイゴ銀行支店
口座番号 支店 0019092
支店名 ザイゴバンクキョウイクウツクワンサザン

応募規定

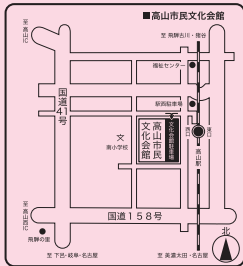
【クレジットカードによる振込の抽合】
岐阜県文化会ホームページ (http://www.gifu-art.jp) から手続きを行ってください。
応募料を工上期間にお支払いのうえ、ご希望の受付欄目に入選してください。
なお、彫刻・工芸及び自由表現部門については、作品賞額が30%以内で、配賞率を必ず確保した一応たる作品のみが、抽選・抽選での受賞が可能です。
・抽選に当選した作品、抽選後の発表の作品は、審査者の鑑賞を願います。
・写真部門のデジタルデータ作品については、7月17日(土) 15:00まで応募フォームからアップロードしてください。
抽籤 7月27日(土) 10:00～14:00 [全ての部門]
7月28日(日) 10:00～14:00 [全ての部門]
セラミックパークMINO 岐阜市東市川 大塚口 (多治市東市川4-2-5)
抽籤 7月25日(木)～21日(日)
さくら文化センター 購入(応募者手続票34-2)
抽籤を希望する場合は、抽籤前にこの期日の18時以前に抽籤を申し込み、申し込みを希望する場合は抽籤が終了時刻までの時間内にオンラインを待つ必要があります。

抽 入 日 時 場

10:00～13:00 13:30～16:00
7月25日(木) 写真 写真
7月26日(金) 工芸 工芸
7月27日(土) 彫刻 彫刻・彫刻賞
7月28日(日) 書・自由表現 書・自由表現
開演 7月25日(木) 12:00～16:00 [全ての部門等]
岐阜市市民文化会館 大ホール・ホールE (岐阜市市民文化1-188-1)

[illegible]

【ぎふ清流文化プラザ 搬入駐車場 料金】
3時間まで100円、以降30分ごとに100円



第2回 ぎふ美術展		作品票	
部門		受付 番号	
作 者 氏 名		審査 結果	
題名	ふりがな		
氏名			

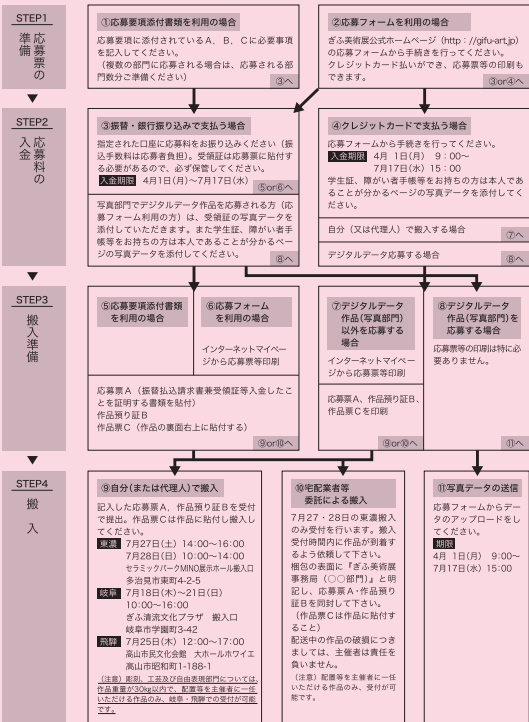
太枠内を正確にご記入ください。作品の裏面・右上に貼付してください。
郵送・下送・自の来場は作品の創作者に貼付（※必ず）

第2回 きふ美術展		作品預り証	
下記の作品を預かりました。 2019年7月 日			
(公財)岐阜県教育文化財団			
部門	受付 番号	期出日	
題名	ふりがな		
氏名	番号() 様		

太枠内を正確にご記入ください。

【応募方法】

- ・作品応募にあたっての応募票等の作成については、応募要項添付書類による作成(①へ)、または、ぎふ美術展公式ホームページの応募フォームによる作成(②へ)が可能です。
- ・応募料については銀行等振込、またはクレジットカードによるお支払いが可能です。



【搬出方法】

- ◆作品搬出には、本人・代理人・業者を問わず「作品預り証B」が必要です。
◆梱包材等は準備しておりません。
※搬入時の梱包材はすべてお持ち帰りいただきます。業者等による搬入の場合、梱包材はすべて処分します。

区 分		日 時		場 所
東 海 圏入 選	選 外	8/18(日) 12:00～17:00		セラミックパークMINO 多治見市東町4-2-5 TEL 0572-267-7333
	入賞・入選	9/1(日) 15:00～17:00		
岐 南 海入 選	入賞・入選 す べ て	避難を避けるため、以下の部門ごとの日時での搬出にご協力をお願いします。 8/ 6(金) 10:00～13:00 書・自由表現 9/ 6(金) 13:00～16:00 日本画・絵刻 9/ 7(土) 10:00～13:00 工芸 9/ 7(土) 13:00～16:00 写真 9/ 8(日) 10:00～16:00 洋画		ぎふ清流文化プラザ 岐阜市宇賀町3-42 TEL 058-233-8161
	入賞・入選 す べ て	9/ 4(水) 10:00～15:00		高山市民文化会館 高山市昭和町1-188-1 TEL 0577-33-8333

※指定の搬出日を過ぎても搬出されない作品で、ご連絡がつかない場合は処分することがあります。
必ず指定期間に搬出してください。

【作品裏面の貼付例】

彫刻・工芸・自由表現は作品の外側に貼付（テープ止め）

してください。



【氏名や題名の記載についての留意事項】

- ①氏名や題名については、目録に掲載しますので、正確に記入してください。
②題名にスペースや句読点等（「、」「・」「・」など）がある場合は、よくわかるように明記してください。
③題名で「○○○……」の点の数はいくつであっても3点(…)で統一させていただきますので、あらかじめご了承ください。

搬出メモ				
区 分		日 時	場 所	
搬入部	班 外	8/18(日) 12:00~17:00	セレクトショップMIND	
		8/19(月) 12:00~16:00	多摩市立中央4-2-5	
	入渠・入渠	9/ 1(日) 15:00~17:00	TEL 0572-26-7333	
検査入部	入渠・入渠 すべて	9/ 6(金) 10:00~13:00	豊・自由市場	
		9/ 6(日) 13:00~16:00	日本橋	
		9/ 7(2) 13:00~13:00	工芸	
		9/ 7(2) 13:00~16:00	武蔵	
		9/ 8(日) 10:00~16:00	栄南	
検査入部	入渠・入渠 すべて	9/ 4(金) 10:00~15:00	高山市役所公民館 高山市昭和町1-186-1	
			TEL 0577-33-8331	

A	第2回さくら美術展 応募票	※大枠の内容を正確にご記入ください。		審査結果	受付番号	建利番号
	提出期限を厳守すること等、応募要項の内容を確認し、 了解の上ご応募ください。					
応募部門	1.展示する作品の題名をご記入ください。(漢字・かなで縦書きに記述してください) 日本画・洋画・彫刻・工芸・書画・写真・自由表現			出品区分	※予く／案別 ①調和／②対比	
ふりがな		姓	名	年 齢	年齢は、2019年4月1日現在の年齢を希望して記入してください。	
氏 名		姓	名	年 齢		
ふりがな		※雅号はキャプション・目録・賞状に掲載を希望する場合のみご記入ください。				
雅 号						
住 所	〒□□□□□□ □□市□□区□□町□□番□□□□					
連絡先	<電話番号>×TEL() - () <携帯番号>×TEL() - () <短縮番号も連絡がとれる電話番号>×TEL() - ()					
審査結果の送付先	〒□□□□□□ (住所の住所と異なる場合は記入してください。同じ組合は記入の必要ありません) □□市□□区□□町□□番□□□□					
撤出方法	①貴社より搬入の方法に決めてください。 ○個人引き取り ○代理人引き取り (代理人氏名：)					
					今回事業数 (他部門も含めた合計)	

領収書コピー貼付欄			事務局使用欄		
区 分	一般、大学生	領収金額	円	0	・ 1 ・ 2
領収書のコピーを貼ってください。			障がい者手帳・学生証・生徒手帳・保険証 その他 () 日本画・洋画・彫刻・工芸・書・写真・自由		
			搬 出 日		

第2回ぎふ

- A** 応募票
- ▶ 太枠内を正確にご記入ください。
- | 題名（上段ふりがな） | 作品の大きさ（縦、横、高さを含む） |
|------------|-------------------|
|------------|-------------------|

応募作品	題名（上段ふりがな）	作品の大きさ等（額・台座等を含む） タテ(高さ)×ヨコ(幅)×奥行(cm)、重量(kg)
訳文 (書部門)	文学性のある作品は、必ず記載してください。	
展示の向き・ 配置図等	必要に応じて、展示の向きを示す図、安定性を考慮した構造略図、写真撮影の際の指示事項を添付してください。 組作品、インスタレーション作品などの場合は、配置図を記載または添付してください。	
制作意図・ コンセプト等 (任意)	必要に応じて、制作意図やコンセプト等を簡潔に記載してください（任意）。	

第2回ぎふ美術展応募・審査結果

	日本画	洋画	彫刻	工芸	書	写真	自由表現	合計
応募点数	53	167	24	80	170	219	100	813
ぎふ美術展賞	1	1	1	1	1	1	1	7
優秀賞	2	2	2	2	2	2	2	14
奨励賞	4	4	4	4	4	4	4	28
入選	34	115	15	42	55	90	31	382
入賞・入選	41	122	22	49	62	97	38	431
入賞・入選率	77.4%	73.1%	91.7%	61.3%	36.5%	44.3%	38.0%	53.0%
県内	49	147	16	67	106	207	69	661
県外	4	20	8	13	64	12	31	152
県外割合	7.5%	12.0%	33.3%	16.3%	37.6%	5.5%	31.0%	18.7%
平均年齢	67.5	54.8	56.3	55.1	40.5	46.2	34.6	47.9

市町村・県別の応募者数

県内

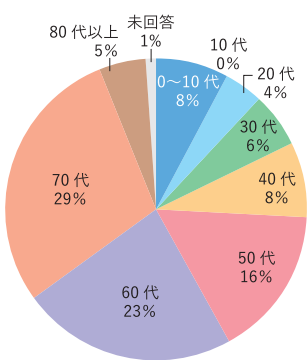
市町村	計	市町村	計
岐阜市	191	岐南町	6
大垣市	54	笠松町	10
高山市	42	養老町	6
多治見市	35	垂井町	14
関市	22	関ヶ原町	1
中津川市	22	神戸町	3
美濃市	4	輪之内町	3
瑞浪市	6	安八町	4
羽島市	14	揖斐川町	5
恵那市	8	大野町	4
美濃加茂市	15	池田町	6
土岐市	12	北方町	6
各務原市	29	坂祝町	2
可児市	50	富加町	3
山県市	12	川辺町	1
瑞穂市	15	七宗町	0
飛騨市	11	八百津町	2
本巣市	14	白川町	0
郡上市	11	東白川村	0
下呂市	3	御嵩町	12
海津市	3	白川村	0
合計		661	

県外

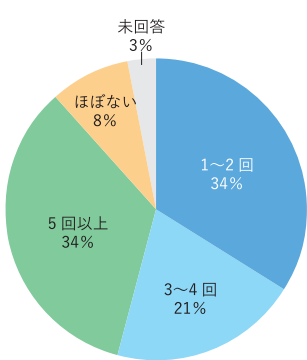
都道府県	計
北海道	1
茨城県	1
埼玉県	2
千葉県	3
東京都	9
富山県	2
静岡県	75
愛知県	44
三重県	4
滋賀県	1
京都府	1
大阪府	4
兵庫県	2
奈良県	1
福岡県	1
沖縄県	1
合計	152

対象者 第2回ぎふ美術展来場者（12,389人）
調査方法 会場内にアンケートコーナーを設置、紙面による任意のアンケート調査
回答数 377件

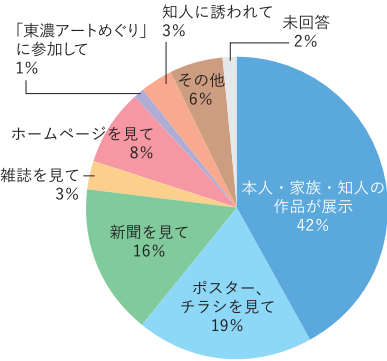
1 年齢



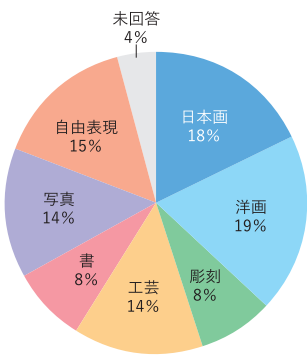
3 各種美術展への年間訪問回数



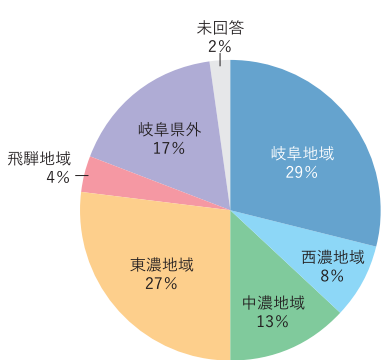
5 ぎふ美術展の開催をどちらでお知りになりましたか。



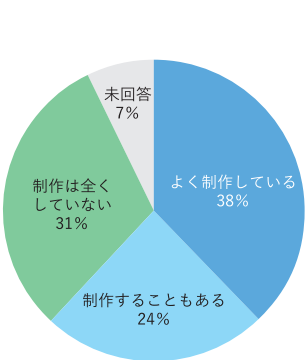
7 今回、ご関心を持ってご覧いただいたのはどの部門ですか。



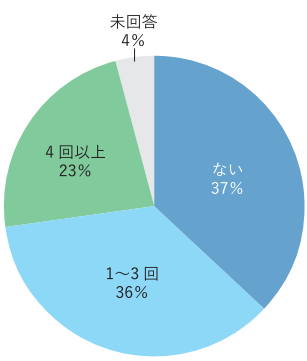
2 お住まいの地域



4 美術作品制作



6 過去に岐阜県美術展（県展）又はぎふ美術展を訪問・鑑賞されたことがありますか。





作品募集ポスター



作品募集チラシ(表)



作品募集チラシ(裏)



展覧会ポスター



展覧会チラシ(表)



展覧会チラシ(裏)



岐阜新聞 (2019.1.18)



岐阜新聞 (2019.7.3)



中日新聞 (2019.1.20)

岐阜新聞 (2019.2.6、2.14、2.22)
※第1回ぎふ美術展賞受賞作品6点を3回にわたって紹介

GIFUTO ほかに地域情報誌 (2019.3月号)



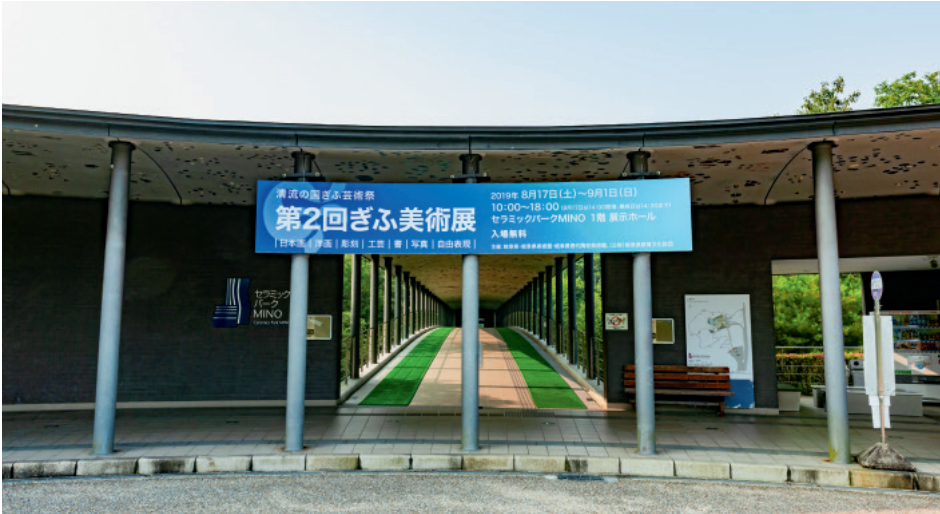
美術の窓 (2019.5月号)



GIFUTO ほかに地域情報誌 (2019.8月号)



広告塔懸垂幕



駐車場ロータリーール看板



展示会場入口看板



審査員講評パネル



シャトルバスのりば案内看板(JR多治見駅南北連絡通路)



シャトルバスのりば案内看板(JR多治見駅南口バスのりば)



文化施設作品募集キャラバン
(パロー文化ホール 2019.3.20-29を皮切りに県内7施設で実施)



会館入口看板



ガラス面カットティングシート



関連プログラム案内柱看板



シャトルバスのりば案内看板(セラムミックパークMINO)

◎ぎふ美術展賞(各部門1点)

重要無形文化財「志野」保持者 鈴木藏氏制作 湯呑み



鈴木藏氏略歴

- 1934年 岐阜県土岐市に生まれる
- 1961年 第8回日本伝統工芸展 NHK会長賞受賞
現代日本陶芸展 朝日新聞社賞第一席受賞
- 1962年 ブラハ国際陶芸展 グランプリ受賞
- 1967年 第14回日本伝統工芸展 日本工芸会会長賞受賞
- 1968年 日本陶磁協会賞受賞('82年に金賞受賞)
- 1985年 個展「流転轉生」会席用食器揃一式を展示(菊池ゲストハウス・虎ノ門)
- 1987年 岐阜新聞文化賞受賞
芸術選奨文部大臣賞受賞
中日文化賞受賞
岐阜県芸術文化顕彰受賞
- 1988年 個展「水指展」(三越・東京日本橋)
- 1992年 日本の陶芸-『今』100選(NHK主催、三越エトワール・パリ、三越・東京日本橋)
藤原啓記念賞受賞
東海テレビ文化賞受賞
- 1994年 重要無形文化財「志野」の保持者に認定される
- 1995年 紫綬褒章受章
- 1998年 朝日新聞社主催「鈴木藏展」をバリ三越エトワールで開催、
翌年帰国展(三越・東京日本橋/名古屋)
- 2001年 日本経済新聞社主催「志埜-人間国宝・鈴木藏展」(高島屋・東京日本橋/大阪/京都/横浜)
名古屋会場は日本経済新聞社・中日新聞社共催で松坂屋美術館で開催
- 2002年 「色絵磁器と志野の人間国宝 加藤土師萌、鈴木藏展」(香雪美術館・神戸市)
- 2005年 旭日中綬章受章
第1回現代の茶陶展 大賞受賞(菊池寛実記念 智美術館)
- 2009年 「不二の志埜-人間国宝・鈴木藏展」
(高島屋・東京日本橋/京都/米子/ジェイアール名古屋/大阪/岐阜/横浜)
- 2010年 第3回現代の茶陶展 優秀賞受賞(菊池寛実記念 智美術館)
「流転轉生-鈴木藏の志野」(菊池寛実記念 智美術館)
- 2018年 高島屋美術部創設110周年記念個展
(前期：東京日本橋/米子/京都/岐阜、後期：大阪、横浜、名古屋、岡山)
- 現在 日本工芸会正会員・参与

◎優秀賞(各部門2点)

岐阜県重要無形文化財「志野」保持者 若尾利貞氏制作 ぐい呑み



若尾利貞氏略歴

- 1933年 岐阜県多治見市に生まれる
- 1963年 朝日陶芸展入選、受賞
- 1965年 日本伝統工芸展入選、受賞
- 1971年 日本陶芸展入選
日本陶芸展海外選拔展出品
- 1972年 美濃新人賞受賞
- 1973年 中日国際陶芸展入選
マサチューセッツ州・ダックベリー、アートコンプレックス美術館内
MY ウェイハウザ氏コレクション收藏
- 1976年 スtockホルム東アジア博物館買上げ永久保存
- 1986年 ワシントン・スミソニアン博物館出品
ロンドン・アルバートミュージアム買上げ永久保存
- 1990年 日本陶磁協会賞受賞
- 1991年 岐阜新聞大賞受賞
日本陶芸展招待出品
- 1998年 一宮市環境センターにて陶壁-群鶴-制作
- 2000年 東海テレビ文化賞受賞
- 2002年 薬師寺永久保存(大皿)
- 2003年 岐阜県重要無形文化財「志野」の保持者に認定される
- 2008年 デンマーク王室收藏(鼠志野陶宮)
- 2009年 無形文化財「志野」の創作・伝承に尽力し文化庁長官賞を受賞
第61回岐阜県教育功労者表彰受賞(志野の創作・伝承に尽力)
- 2010年 岐阜県各界功労者表彰受賞(文化芸術)
旭日双光章受章
- 現在 日本工芸会正会員
美濃陶芸協会会員



清流の国ぎふ芸術祭運営委員会
委員名簿

役職	氏名	所属機関・団体役職
委員長	吉田 豊	岐阜県芸術文化会議名誉顧問
委員（五十音順）	臼井 千里	書家、岐阜県世界青年友の会常務理事
	角田 茉瑳子	児童文学作家
	加藤 幸兵衛	陶芸家
	神戸 峰男	日本芸術院会員、名古屋芸術大学名誉教授
	桑原 鑛司	洋画家
	宗宮 喜代子	東京外国語大学名誉教授、岐阜聖徳学園大学名誉教授
	土屋 明之	岐阜県芸術文化会議会長
	仲居 宏二	元聖心女子大学教授
	日比野 克彦	岐阜県美術館館長、アーティスト、東京藝術大学美術学部長
	廣瀬 輝	中日本高速道路(株)参与

ぎふ美術展企画委員会
委員名簿

役職	氏名	所属機関・団体役職
委員長	神戸 峰男	日本芸術院会員、名古屋芸術大学名誉教授
副委員長	桑原 鑛司	洋画家
委員（五十音順）	河西 栄二	岐阜大学教育学部教授
	鈴木 徹	陶芸家
	長谷川 喜久	日本画家、名古屋芸術大学教授
	古田 菜穂子	(公財)岐阜県教育文化財団文化芸術アドバイザー
	前田 真二郎	情報科学芸術大学院大学 [IAMAS] 教授
	横山 豊蘭	書道家、アーティスト、名古屋芸術大学非常勤講師

第2回ぎふ美術展を終えて

旧来の「岐阜県美術展」の伝統を大切にしながら大胆に刷新し、2018年度に新たに生まれ変わった「ぎふ美術展」は、第2回目も大変ご好評のうちに終えることができました。第1回に引き続き審査員の選定には一番苦心して取り組んだところであり、応募者の皆様に「この先生に作品を評価してもらいたい」と思っていただけのような、各分野の第一線で活躍されている著名な方々にご就任いただくことができました。第2回展も県内外から多彩な力作が寄せられ、813点の応募をいただきました。審査員の方々は、全作品と真摯に向き合い、熱心に議論を行って、入選作品を選定していただきました。「質の高い作品が多い」「全国の県展のお手本となるような展覧会だ」という、嬉しいご感想もいただきました。また今回は、岐阜県美術館の改修工事に伴い、会場が全国的にも暑さが有名な多治見市での開催となりました。

東濃地方の自然に囲まれた開放的な環境の中、地元の方々の方々をはじめ多くの皆様にご来場いただき、多治見の暑さに負けないような、熱気あふれる良い展覧会になったと思います。会期中には、審査員の先生方や各分野の専門家によるトークイベント、部門別の作品講評会に加え、関連ワークショップなども開催されました。トップアーティストや評論家として活躍する方の考えや想いから刺激を受けたり、作品作り体験を通してアートを肌で感じたりと、この展覧会を通して多くの皆様が芸術に親しみ、身近に感じていただけたのではないかと思います。この素敵な「ぎふ美術展」が、より多くの県民の皆様に親しんでいただける公募展として、この先も回を重ねながら末永く発展していくことを願っています。

ぎふ美術展企画委員会委員長 神戸 峰男

清流の国ぎふ芸術祭
第2回ぎふ美術展

THE 2nd
GIFU ART
EXHIBITION

発行年：令和2年1月発行

デザイン 滝川正弘（有限会社クロス）
印刷 株式会社 山田写真製版所
撮影 Choice 宮川邦雄
編集・発行 岐阜県
公益財団法人岐阜県教育文化財団

本書掲載の肩書きは令和元年12月1日現在のものです。



2019年度
文化庁
文化芸術創造拠点
形成事業